

# 令和6年度 SAFEアワード

## 応募事例一覧

<一般投票対象事例を除く>



サービス産業  
安全な職場づくり部門

# 小規模事業だからこそ可能な安全な職場作り 職員から利用者へつなぐ安全ガイド

事業者名：株式会社ココカラミライ  
業界・業種：医療・福祉  
従業員規模：約5名  
地域：京都府

新規事業の立ち上げに伴い、現時点で安全対策のマニュアルが整備されていない状況です。そのため、従業員と協力し、事業所内における【事故の予測・原因・対策】を議論し、利用者様を反映させたガイドラインを策定し、順次取り入れていく予定です。

## 【マニュアルの安全対策を意識付け】

### 1. 導入時教育

初期教育: 新入社員や新しい職務に就く従業員に対して、安全対策マニュアルの徹底した教育を実施します。

具体的な事例や過去の災害事例を用いて、実際のリスクを理解させます。

マニュアルの配布: 安全対策マニュアルを配布し、各自がいつでも参照できるようにします。電子版も提供することで、スマートフォンやPCからもアクセス可能にします。



周知



確認作業



## 【安全マニュアルシートで最終確認を行う】



## 【やってみての効果】

### 1. 従業員のリスク意識の向上

初期教育や定期的な再教育により、従業員が日常業務においてリスクを意識するようになります。

### 2. 事故発生率の低下

定期的な訓練と意識付けにより、過去に頻発していた事故が減少し、負傷者や物損の発生が少なくなります。

## 【今後の目標や展望】

### 1. 職場の信頼感と連携の強化

同僚同士で安全を確認し合う風土が醸成されることで、チーム内の連携が強化され、職場全体の安全性が高まります。

また、会社が安全対策に真剣に取り組んでいることが伝わり、従業員の会社に対する信頼感が向上します。

結果的に、従業員の士気やモチベーションが向上します。

# 【安全な職場づくり部門】



## フォークリフト事故『ゼロ災害』を目指す (解釈差をなくすためのよりわかりやすい安全教育)

事業者名：ロイヤルホームセンター(株)  
業界・業種：小売  
従業員規模：約4,000人  
地域：近畿/大阪

### 背景 (課題・ニーズ)

- ・フォークリフト事故発生→マニュアル内容の理解度に差があり、結果違反による事故が多い。
- ・文字の多いマニュアルだけではイメージがしにくい⇒活字中心の教育コンテンツを見直す。

### 目的

- ・フォークリフト事故『ゼロ災害』の達成
- ・フォークリフト安全週間を定め、新コンテンツを用いてマニュアル遵守の為の啓蒙活動をおこなう。

### 取り組んだプロジェクト内容

目と耳に直接的に訴えかけ、理解のスピードを上げ、且つ理解を深めることで「実行力」を高める⇒安全週間に向けて以下のコンテンツを配信

解釈差を無くす資料づくり (一例を紹介)

解釈差を無くすため、模型を活用し、運転者の死角をビジュアルで表現した

解釈差を無くすため、作業指揮者の事故事例を動画で再現した

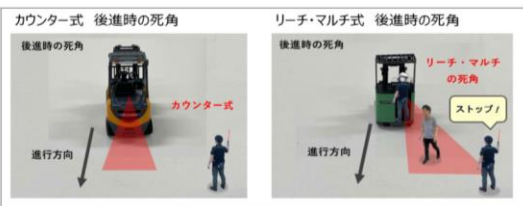
解釈差を無くす教育 (二段階教育の実施)

第一段階  
本部→店舗管理者  
(管理者教育)

第二段階  
店舗管理者→担当者  
(ラストワンマイル教育)

実践

フォークリフト  
安全週間



### やってみての効果

2024年度のFL累計事故件数は減少傾向→9月末時点で前年比△60%  
研修後の従業員理解度99.8%

### 今後の目標や展望

- ・KYT活動および過去の事故事例の動画化
- ・フォークリフト作業指揮者向け教育動画の配信
- ・マニュアルの動画化 (行動が伴う手順の動画化)

# 送迎車交通ヒヤリマップで交通事故防止

社会福祉法人みゆき福祉会  
業界・業種：保健衛生業  
従業員規模：100～299  
地域：北海道・東北

マップを紹介いただく機会があり作成をスタート。現在も分かり易いとの声を受け毎年更新中。委員会等で危険と感じた場所等の情報を集め、マップ上に見える化して職員に周知している。初めて運転する職員にも危険箇所をイメージしやすく不安を解消できる。職員間で安全運転の意識や声掛けが高まる。今後も職員間で危険箇所を吸い上げ、リアルタイムに情報を更新していく。

## パッと地図からイメージできる

- ・ 込み合う道路
- ・ 街灯がなく見えづらい
- ・ 細い道で車がすれ違えない
- ・ 夕方は中学生が多い
- ・ カーブ直ぐに信号
- ・ 側溝に蓋が無い
- ・ 電柱と歩行者が重なる
- ・ 冬季は道路が凍結する



## 「駅周辺交通ヒヤリマップ」



## 「施設周辺交通ヒヤリマップ」





# 職場定着支援助成金の活用について

～腰痛災害防止のための介護設備・機器導入～

事業者名：社会福祉法人ロザリオの  
聖母会 ナザレの家あさひ  
業界・業種：保健衛生業  
従業員規模：300～  
地域：千葉県

## 1. 助成金活用のきっかけ及び助成金の名称

2016年、入浴支援に伴う支援者への身体的負担を軽減する為リフト付きシャワーキャリーの導入を計画。これを契機に2024年9月現在、7台の機器を導入。

機器導入に関する補助金を探すも見つけることができず、福祉機器を取り扱う業者さんに相談し当該助成金に関する情報を得て申請した。

助成金名称は「職場定着支援助成金（介護福祉機器等助成）」※現在のこの助成金は廃止となり、現在使用可能な助成金は名称などが変わっているようです

→ [https://hojo.keirin-autorace.or.jp/shinsei/shinsei\\_kikai\\_fukushi.html](https://hojo.keirin-autorace.or.jp/shinsei/shinsei_kikai_fukushi.html)

## 2. 助成金について（2016年当時の情報）

機器代金の1/2の額を補助を受けた。但し一法人上限300万円

当時の助成額はリフトの購入金額225万円×1/2=112.5万円

申請書等の作成や資料の準備などに係る負担感は？→助成金担当者が速やかに対応して下さったため、スムーズに申請することが出来た

♪機器導入後、腰痛を理由とする退職者は無→労働環境の改善と労働災害の軽減につながった♪

## 3. 課題

★計画期間及び対象となる介護福祉機器が決まっている→機器の金額などを含めて事前に確認が必要

★機器以外の補助は非該当になる為機器代以外の経費は自己資金→資金繰りの検討が必要

★当法人は複数の施設・事業所があるが、場合により同一法人で既に助成を受けていた場合は助成額に制限がある為（同一法人内上限額の設定）法人内の助成金に関する情報の共有が必要

## 4. 腰痛災害防止のために

身体介護などは、ベッドからの移乗や移動、排せつや入浴など、その都度毎日行う行為のため、わずかな負担も積み重ねれば大きな負担（痛み）に変わり、場合によっては離職へとつながりかねません。そこで、事業者としては、職場の環境を整備することは当たり前ですが、職員の身体的な負担を取り除くことによって常に笑顔で利用者さんに接してもらうことで支援の質の向上につながることが出来ます。



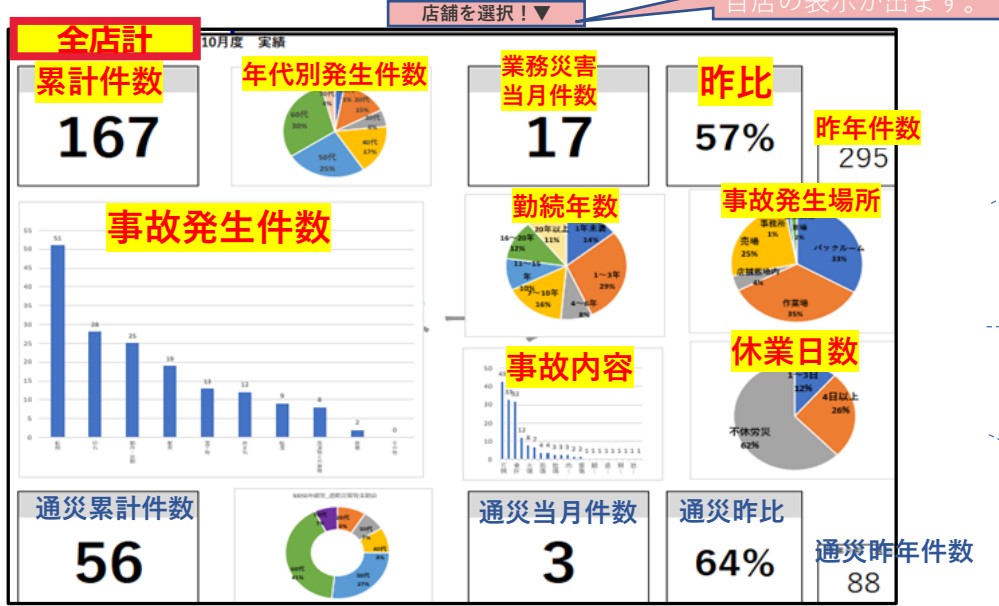
# 労災発生の傾向は？ 労災ダッシュボードで分析・対策だ！

事業者名：イオン北海道株式会社  
 業界・業種：総合小売業  
 従業員規模：19,022名（24年2月末）  
 地域：北海道・東北/北海道

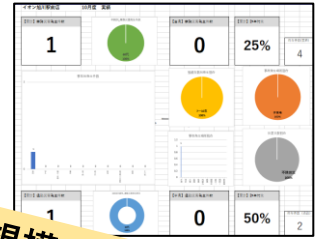
## 背景（課題・ニーズ）

当社は全道各地に総合スーパー、スーパーマーケット、ディスカウントストアなど様々な業態を展開しています。しかし、各店舗の規模や地域特性により、労働災害の発生状況やその原因は異なります。これに対応するため、各店舗に適した分析と対策が求められています。そこで、各店舗にあった分析・対策を講じるため、労災データをダッシュボードを用いて一目で把握できるようにしました。

## 取り組んだプロジェクト内容



**A店**



**B店**



**C店**



業態・店舗規模によって傾向が違う！

## やってみての効果

24年度上期 業務災害発生件数

昨比 **86%**

**特に！！**

長年の課題であった「切れ・こすれ」の労働災害が昨比**66.7%**と大幅減少！

情報を可視化し、一目で自店の労災の全体像がわかります。全店計と比べることで、自店の労災の特徴を分析をでき、防止対策を進めるためのデータ取得が容易になりました。

# 夏・冬のゼロ災運動で 労働災害防止対策を加速する！

事業者名：イオン北海道株式会社  
 業界・業種：総合小売業  
 従業員規模：19,022名（24年2月末）  
 地域：北海道・東北/北海道

## 背景（課題・ニーズ）

当社は、一昨年のアワードにおいて「冬のゼロ災運動」でシルバー賞を受賞いたしました。この取り組みは全国の皆様から高く評価されました。この成功を基に、労働災害防止の取り組みをさらにブラッシュアップし、形骸化しがちな対策を見直しました。具体的には、夏と冬の年2回、定例のイベントとして実施することにより、以下の2つの目的を達成することを目指しています。

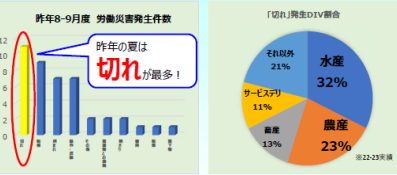
- ① **従業員の労災防止風土の醸成** 季節ごとの労働災害に対する意識を高め、従業員一人ひとりが安全に対する責任感を持つ機会を提供しました。
- ② **重点取組の決定と統一** 全店が同じベクトルで取り組むための重点取組を決定し、効果的な労災防止策を全社で共有・実施しました。

## 取り組んだプロジェクト内容

### 夏のゼロ災運動2024

**STOP! 無くそう! 熱中症 切創災害**

2024年7月11日~9月10日



### 夏のゼロ災運動2024 重点取組項目

**重点取組① 熱中症対策**

・勤務時の熱中症対策

- ① 温度計、湿度計、暑さ指数の設置（WBGT値の再周知）
- ② 業務中の給水場所の設定確認
- ③ 体調管理と自己予防の徹底
- ④ 定型的な温度・湿度の確認（水分補給の声掛け）
- ⑤ 熱中症リテラシーの向上
  - ・労災ニュースでの取り上げ
  - ・労災クイズの実施
  - ・セルフケアの周知

**重点取組②「切創災害」対策**

・切創災害対策

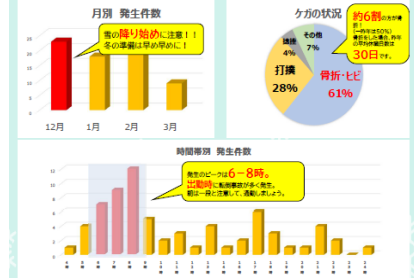
- ① 新切創手袋の使用推奨
- ② 新規入社者への雇入れ時教育の徹底
- ③ ルールの再確認
- ④ 事例共有によるリスクセシメント



### 冬のゼロ災運動 2023

**防ごう! 無くそう! 転倒災害**

2023年12月1日~2024年3月31日



### 冬のゼロ災運動2023 重点実施項目

**実施項目① 店舗敷地内の安全対策**

- ・従業員出入口周辺に砂利、融雪剤の散布と凍結確認をスケジュール化する。
- ・従業員駐車場から店舗への経路を固定することで、砂利・融雪剤の散布を集中させる。
- ・危険マップ（又はハザードマップに追加）を作成し注意を呼び掛ける。
- ・昨年事故発生箇所、危険マップで記した危険箇所可能な範囲で砂、スコップ等を設置する。

**実施項目② 通勤時の転倒対策**

- ・いつ冬道になっても安全に通勤が出来るように早めの準備を
- ・冬靴（滑りずらい履物）着用の徹底。
- ・すべり防止のアクティブシューズの推奨。
- ・ながら歩行（スマートフォン、電話等）をしない。
- ・ポケットに手を入れないで、手袋を着用する。
- ・時間に余裕をもって、走らない、急がない。
- ・すべりやすい場所（横断歩道、地下鉄出入口、バス停、車の出入口がある歩道）を理解する。

**実施項目③ ケガを防ぐ服装・体操の推奨**

- ・転んだ時に、ダメージを軽減する服装にする。
- ・帽子、手袋、マフラーを着用し、肌をなるべく見せないように。
- ・転んだ際にダメージを和らげる、中綿入りのコートがおススメ。
- ・後ろに転んだ際にクッション代わりになるため、かばんはリュックがおススメ
- ・ストレッチや準備体操をして、ケガを予防する。

## やってみての効果

今夏の北海道は非常に暑く、札幌市では真夏日が18日と例年より10日も多くなりました。しかし、当社では熱中症による労働災害は0件でした。一方、冬季の転倒災害については、札幌市の凍結路面による転倒での救急搬送が過去最多を更新する厳しい環境であったものの、当社では昨年より転送災害の件数は微増にとどまりました。これらの成果は、従業員一人ひとりが季節に応じた労働災害への意識を高めた結果であると言えます。

選定する重点取組は夏は「熱中症」、冬は「凍結路面对策」はマスト。その他の重点取組は昨年の実績や現在の状況を鑑み都度決定する。



# ファン付きウェアと警戒アラート で熱中症を未然予防！

事業者名：株式会社カクヤス  
業界・業種：小売業  
従業員規模：約5,500人  
地域：関東/東京

## 背景（課題・ニーズ）

当社は屋外での作業や運転が多く、特に夏場は車内や外気温が非常に高くなります。車内でのクーラーが効きにくい状況や、荷物の積み下ろし作業を行う際に高温多湿、直射日光、無風などの条件下が、熱中症リスクを高めることから意識的に対策を講じております。

## 取り組んだプロジェクト内容

### 【ファン付きウェア購入補助】

内蔵の小型ファンで身体を冷やし、熱中症などの予防に効果がある「ファン付きウェア」を購入希望者に対して補助金を支給しました。暑い環境でも快適に作業ができ、疲労やストレスが軽減され作業効率が向上します。さらに、体の冷却に使うエネルギーを押さえ、体力を長持ちさせるほか、長時間の作業でも集中力が保たれやすくなります。



### 【熱中症警戒アラート配信】

翌日の熱中症警戒アラートを確認し、暑さ指数（WBGT）が33℃に達すると予測された場合、イントラにトピックスとともに当社が運営展開する首都圏・関西・九州ごとに発信。暑さへの「気付き」を促し熱中症への警戒を呼びかけました。

0825予測【熱中症警戒アラート】

各位  
酷暑続く中での業務、お疲れ様です。  
日差しが乏しくなる分だけ気温の上昇が抑えられ、猛暑日になるところは減少していく予想ですが、ピークが過ぎても体調管理は油断できません。  
屋外での業務に従事される皆さんは熱中症の危険性が高い状態が続くため、**こまめな水分補給や適宜塩分補給**をする他、休憩は業務の合間にも積極的にとる必要があります。**休憩をとる際はできる限り日陰を確保**するなど熱中症対策を行い健康管理に注意するよう心がけてください。

No.	地方	都府県	業務所名	2024年08月25日(日)							
				04時	09時	12時	15時	18時	21時	24時	
1	関東	埼玉	東川	25	24	23	23	22	21	21	21
2	関東	埼玉	久喜	25	24	24	23	22	21	21	21
3	関東	埼玉	鶴山	24	24	23	23	22	21	21	21
4	関東	埼玉	赤川	25	24	23	23	22	21	21	21
5	関東	埼玉	東部	25	24	23	23	22	21	21	21
6	関東	埼玉	所沢	25	24	23	23	22	21	21	21
7	関東	茨城	鹿嶋	25	24	23	23	22	21	21	21
8	関東	茨城	大子	25	24	24	23	22	21	21	21
9	関東	茨城	赤井	25	24	23	23	22	21	21	21
10	関東	茨城	鹿嶋	25	24	23	23	22	21	21	21
11	関東	茨城	127(中継)	25	24	24	23	22	21	21	21
12	関東	千葉	佐野	25	24	23	23	22	21	21	21
13	関東	千葉	船橋	27	26	25	25	24	24	24	24
14	関東	千葉	船橋	25	24	24	23	22	21	21	21
15	関東	千葉	千葉	27	26	25	25	24	24	24	24
16	関東	神奈川	横浜	25	24	23	23	22	21	21	21
17	関東	神奈川	横浜	25	24	24	23	22	21	21	21
18	関東	神奈川	辻野	25	24	23	23	22	21	21	21
19	関東	神奈川	小田原	25	24	23	23	22	21	21	21

## やってみての効果

昨今の相次ぐ危険な暑さに対する意識が高まったほか、従業員が進んで暑さを避ける工夫をするなど、一定の効果があつたと考えます。

## 今後の目標や展望

来夏は「暑熱順化」の重要性について、より理解が深まるよう工夫した発信方法を検討するほか、さらに高性能なファン付きウェアを従業員に提案できるよう討議を進めます。

# 「安全第一！私の1年：個人目標達成と安全意識向上への挑戦」

事業者名：株式会社ビステム・クリーン  
 業界・業種：サービス  
 従業員規模：120名（パート社員含む）  
 地域：関東／神奈川

## 1. 背景（課題・ニーズ）

今までも、健康に注意するように、安全作業を心掛けるようにという注意や声かけ、日々の確認をしてきたものの、その場限りで終わってしまうことが結果に結びついていなかった。

## 2. 目的

目に見える形で目標を作成し、毎月、全員一緒に前月実績を報告することで意識の改善向上を図った。

## 3. 取り組んだプロジェクト内容

年度初めに「安全・品質・生産性」の3項目について 各個人で年間目標を設定した。安全が第一項目なのは「安全優先」という会社の考えの現れ。目標には【テーマ（何を達成するか）】 【達成レベル（具体的な目標）】 【達成手段（どのように達成するか）】 【今月の実績（何をしたか）】を記述し、毎月の定期ミーティング時に報告を行い、それに対し全員でアドバイスを行った。

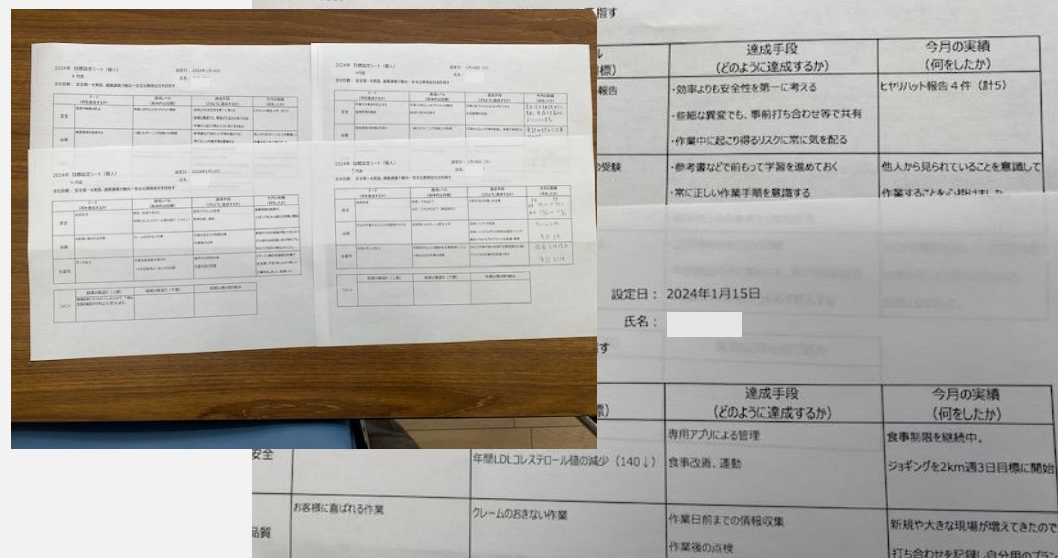
## 4. やってみたいの効果

- ①体質改善を行ったり、日々の健康自己管理を行うことで病気による休みが約80%減。
- ②『ヒヤリ・ハット』が蓄積されていき、情報を共有することで今年度無事故達成中。

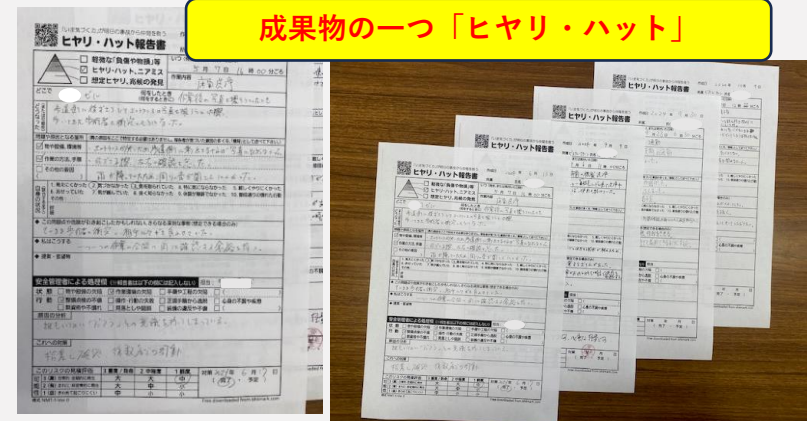
## 5. 社員のコメント

【A君】「今まで、やらなければいけないと分かっているけど、日々の業務に忙殺されて結果を出せなかったが、周りの人たちへ報告するという責任感が生まれ、成果物を作成できました」

目標設定シート（個人）



成果物の一つ「ヒヤリ・ハット」



# ウェルビーイング推進室を中心とした 職場全体の労災防止への取り組み

事業者名：社会福祉法人和光会  
業界・業種：医療・福祉  
従業員規模：約760人  
地域：岐阜県(東海・北陸ブロック)

## ウェルビーイング推進室

保健師、看護師、臨床心理士等10名を擁する専門部署を設け、  
職員のメンタルを含め職員の健康管理、労災防止に取り組んでいます。



### 主な取り組み

#### 健康増進、健康管理

- 健康診断後の個別面談・相談
- メンタルサポート
- 職員を対象とした研修
  - ・ラインケア動画配信（全管理職視聴必須）
  - ・たばこ、睡眠セミナー
  - ・これだけ体操動画配信（全職員視聴必須）
  - ・女性の健康・アルコール依存防止
  - ・育児と介護の両立支援動画配信

動画配信▶



### 環境整備

- 各事業所の訪問による**職場環境**のチェック
- 50人未満の事業所を**含むすべての事業所に産業医を配置し、ウェルビーイング推進室と連携**して復職面談などの対応を実施

### 啓蒙活動

- 健康障害の予防のため、健康に関する情報を**通信発行や動画配信で発信**
- 安全運転講習の実施



ウェルビーイング通信▶

### 体力づくり

- 肺年齢測定会の実施
- 体力測定の実施
- さつきラン&ウォーク2024に参加  
／岐阜県で最多の参加者

日常的な運動習慣が定着し、運動不足の改善に繋がりました！



### 2023年度結果

- 定期健康診断受診率 **100%**を維持
- 定期健康診断後の精密検査受診率 **100%**を維持
- ストレスチェック受験率**70%**以上
- 労働災害件数**8**件
- 健康経営優良法人を**2**年連続で取得！

職員の生産性等の状況「アブゼンティーイズム、プレゼンティーイズム、ワークエンゲージメント、ヘルスリテラシー」を常に管理し、課題の早期発見へ繋がっています。

アブゼンティーイズム	3.1 日
プレゼンティーイズム *1	56.6%
ワーク・エンゲイジメント *2	3.12 点
ヘルスリテラシー *3	3.71 点

\*1 QQmethod

\*2 ユトレヒト・ワークエンゲイジメント尺度（9項目）

\*3 CCHL尺度

# 労働災害防止

事業者名：株式会社 1 & D ホールディングス  
業界・業種：焼肉レストラン・肉の小売業  
従業員規模：社員 650名、パートアルバイト 10450名  
地域：関西・関東・九州・中京・中四国

## ①危険見える化ラミネート貼付

(目的) 発生頻度の多い労災事故の危険に見えるか化し、注意点を共有

(貼付場所) フライヤー付近の壁 下げ場の壁 包丁殺菌庫の扉 スライサー付近の壁 パントリーの壁

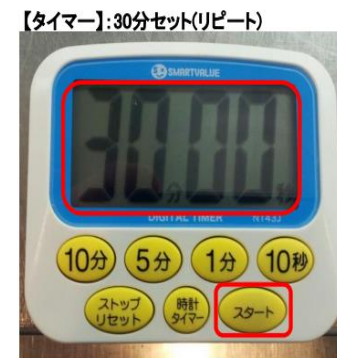


## ②一旦停止による衝突・火傷事故の防止

(過去事事故例) ・ 熱い料理を運ぶ従業員とお客様（子供）が通路で衝突し、こぼれた料理でお客様、従業員の火傷事故発生  
・ 熱い料理を運ぶ従業員のトレイに別の従業員が接触し、こぼれた料理で双方火傷

(目的) 通路が交差する床に一旦停止シールを貼り、一旦停止で左右確認し、従業員間、お客様との衝突事故を防止

(運用) 30分毎のタイマーセットにより、忙しい中でも一旦停止の意識を啓蒙



【安全な職場づくり部門】



Reliance Security Corporation  
リライアンス・セキュリティー株式会社

# 社員の健康と命を守る経営

## 【熱中症対策】

### 重症者0を継続する取組

事業者名：  
リライアンス・セキュリティー株式会社  
業界・業種：警備業  
従業員規模：230名  
地域：中国/広島



背景（課題・ニーズ）

●2007年に熱中症重症者発生 ●「警備業」は「農業」「建設業」に次ぐ死傷災害の発生 ⇒ ◎社員の健康と命を守るための強力な取組

取り組んだプロジェクト内容

毎年7月～8月は熱中症対策集中巡察  
【対面での体調確認・安全指導】

毎年取り組み内容をブラッシュアップ／熱中症策資料配布・周知徹底、熱中症対策講習会参加、熱中症対策巡察実施(体調確認・指導)、ポカリスエット・水・塩タブレット配布、経口補水液準備・配布、熱中症対策キット装備、メッシュ素材キャップ導入、高気通性ヘルメット・安全ベスト・制服導入、ドリンクホルダー導入、業務用冷凍庫導入⇒氷配布、夏用クールマスク導入、社内安全講座開催、空調ベスト導入、冷感クールTシャツ導入、遮熱ヘルメット導入(ヘルメット内の温度を12度低減)、ミストファン導入、熱中症対策オリジナルキット配布、熱中症予防情報サイト(環境省)登録推奨  
2024年の熱中症対策集中巡察は過去最長7月6日(土)～9月16日(月)の73日間 ○対応管理者 延べ85人 ○対象警備士 延べ1,048人 ○対応時間 延べ680時間 ○ミネラルウォーター 1,080ℓ(500mlのペットボトル2,160本) ○塩タブレット 40kg 等 配布

2015年度 取組



2016年度 取組



2018年度 取組



2020年度 取組



2021年度 取組



2022年度 取組



2023年度 取組



やってみての効果

- 2008年以降重症者0を継続中
- 熱中症の発生率が1/3に減少
- 多様な人材の満足度向上・定着
- 社員を大切にする会社の認知拡大
- 夏季の応募数・採用数が3倍以上
- 70歳以上のシニアが5年で2倍以上

一人ひとりの社員の健康に向き合った結果、脳疾患や心臓疾患などの病気をしても復帰を目指す社員が増加。  
3年連続で健康経営優良法人(ブライツ500)認定

今後の目標や展望

気象庁観測史上1番暑い夏を2年連続更新  
2025年以降も異次元の熱中症対策  
労働者人口減少の中でも選ばれる会社に！

【2024年の新規対策】



○ミストファン ○遮熱ヘルメット ○熱中症対策キット

【止まることなく進化を続ける熱中症対策】

# ペガサス ☆オリジナル☆ 3分ストレッチ チャレンジ

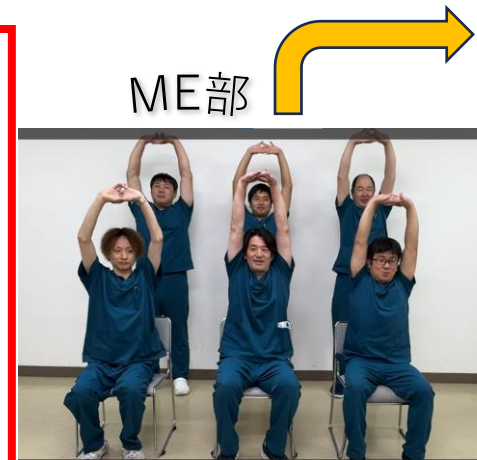
事業者名：社会医療法人ペガサス  
業界・業種：医療福祉  
従業員規模：300名～  
地域：近畿

## 背景（課題・ニーズ）

当法人の労働災害の中でも転倒災害が増加傾向となっていたことから、法人内の理学療法士や作業療法士を中心として、転倒防止チームを発足。チームを中心として協議を行い、オリジナルストレッチの原案を作成。どうやったら継続して取り組んでもらえるのか現場の意見を聴きながら、実施時間の調整や気軽にできるように工夫を行い、「ペガサスオリジナル3分ストレッチ」を作成し、転倒災害の防止の取組みを実施。

## 取り組んだプロジェクト内容

1. 転倒災害の防止のため、理学療法士、作業療法士等を中心とした転倒防止チームを発足
  2. 就業前等にストレッチを行うことで、転倒防止になると考え、オリジナルストレッチを作成
  3. 現場にオリジナルストレッチを見てもらい、意見を求める
- ★現場からの意見
- ・継続して実施できるものがよい
  - ・できれば短い時間
  - ・誰でもできる簡単なものがよい（50代や60代の職員が増えている）
4. 時間を短くするなどしてオリジナルストレッチを修正
  5. 覚えてもらうために、オリジナルストレッチの動画を撮影（できるだけたくさんの職員に協力を依頼）
  6. 動画を公開し、みんなに覚えてもらう
  7. 実施率向上のため、職員向けの全体研修内でも公開し、参加者全員で実施



医師・クラーク

## 取組み効果

- ・オリジナルストレッチの動画を公開後、転倒災害は現時点で0件
- ・オリジナルストレッチをみんなで一緒にやることで、就業前にあいさつや雑談などを行うコミュニケーションの場となった。

## 今後の課題

- ・継続して実施してもらうことが重要。法人内の研修やイベント等の開催時に、みんなと一緒にやるなどペガサスオリジナルストレッチを実施する機会をつくり、継続実施に取り組んでいく。

医師・看護師・放射線技師・臨床検査技師・クラーク・事務



# 労働災害抑止対策

## 指導、教育、制度、ITツール活用

事業者名：リハコンテンツ株式会社  
業界・業種：通所介護  
従業員規模：276名（2024年6月）  
地域：千葉県（本社）

### 1. 業務上の事故、怪我、不調

当社のデイサービス事業は主に要介護度の低いご利用者を対象としており、重大な労働災害は少ないですが、以下の労働環境に関する課題が存在します。

- ・ご利用者からの暴力による傷や打撲
- ・施設内の障害物や設備による怪我
- ・ご利用者、他スタッフからの感染症
- ・介護車両の運転中の事故
- ・ストレスや職場環境から来る心的不調
- ・人間関係のストレス
- ・長時間のパソコン作業や書類作成による目の疲れや肩こり

### 2. 労働災害抑止対策：指導、教育、制度

- ・指導、教育
  - ・入職時にご利用者への介助方法とともに、自らの防災対策についても指導
  - ・毎月「自主点検リスト」において休暇の取得状況を確認、適切な取得を指導
- ・制度
  - ・福利厚生策の一環として「医療コンシェルジュ」サービスを導入

### 3. 労働災害抑止対策：ITツール活用

- ・メッセージツール
  - ・全職員へのツール付与により、現場職員と労務担当者、現場職員と経営層等、縦横の垣根無く直接コミュニケーションが可能
- ・カメラ
  - ・本社事務所、施設フロアにカメラを設置、相互コミュニケーション、及び事故発生時の検証用記録等に活用
- ・送迎車ナビシステム
  - ・送迎先の住所などの基本情報と時間指定などの条件を予め登録しておくことで最適な送迎計画を作成可能。運転走行の記録、分析も行える
- ・帳票作成システム
  - ・携帯端末（iPod）を用い、バイタル、体力測定、LIFE基礎情報の登録を実施、事務業務の軽減を行う



入社時研修をはじめ定期的な研修を実施することで  
職員の腰痛予防を継続的にサポート

事業者名：株式会社リエイ  
業界・業種：高齢者福祉  
従業員規模：施設数48か所  
地域：千葉・東京・埼玉・愛知  
大阪・兵庫・福岡

当社では、毎月入社した職員に向けて介護技術研修を実施しております。  
またその他のタイミングでも定期的の実施することで、腰痛予防の知識を発信。  
まずは、ボディメカニクスの理論を理解したうえで、利用者様にとっても職員自身にとっても  
安心安全な介護を目指しています。

## 【実施研修】

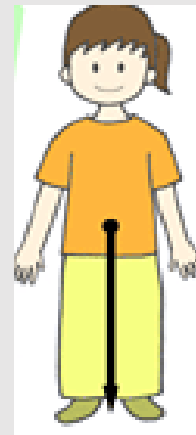
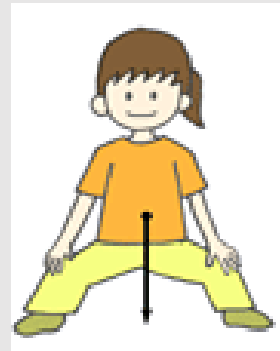
1. 中途社員研修 月1回
  - ・安全衛生教育
  - ・介護技術研修
2. 1年目研修・2年目研修・3年目研修



## 【内容】

## ボディメカニクスとは

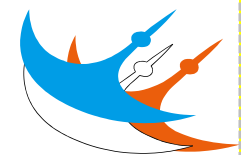
- ・支持基底面の理解
- ・重心を低くする







製造業、建設業、運輸業等  
安全な職場づくり部門



# 安全の見える化推進パトロール 「災害ゼロ」から「危険ゼロ」へ



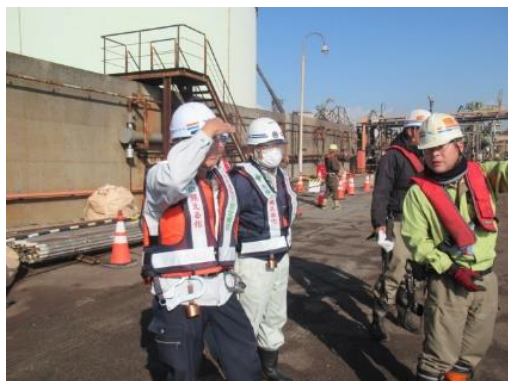
事業者名：東亜建設工業(株) 大阪支店  
業界・業種：総合建設業  
従業員規模：約150人（全社約1700人）  
地域：近畿、四国を管轄

## 背景（課題・ニーズ）

## 取り組んだプロジェクト内容

大阪支店安全衛生協力会では、自主的安全衛生活動をより積極的に推進する方策の一つに、協力会正会員メンバーから**見える化チーム**を編成し、**安全や危険の見える化に特化した現場点検**を行い、現場の労働災害防止に繋がる「見える化」を実現し、「ゼロ災」に取り組んでいる。6人で**見える化推進**のトラチョッキを着用、熊よけ鈴を腰にぶら下げて現場を巡視する。

## 見える化推進の活動状況



### 【見える化アドバイス】

詰所ドア開閉時の通行者との接触  
防止対策として警報音や明示を検討



### 【見える化アドバイス】

アトリガー設置位置をスラブ面上に  
テープ、石灰等のライン明示を



### 【見える化アドバイス】

生コン車の誘導・停車位置を  
白線あるいはバタ角で視認向上



## やってみての効果

通常の指摘事項や良好事項の抽出するパトロールにかわり、**協力会の会員企業の多角的な視点**で、様々な見える化のアイデアを挙げ、現場職員と一緒に有効な見える化事案を考えることで、現場全体の**見える化意識**が高まる。

## 今後の目標や展望

視覚に訴える**見える化**、聴覚に訴える**聞こえる化**等、現場に潜むあらゆる危険要因を可視化することで、「**危険ゼロ**」の徹底で**ゼロ災**を目指す。  
協力会正会員会社の**全員参加活動**として**一体感**を醸成する



# 部品台車の運搬作業が、前傾姿勢で辛い 放置されていた腰痛リスクを改善し排除！！

事業者名：株式会社 ジェイジェイ  
業界・業種：宇宙航空・製造業  
従業員規模：75名  
地域：中国・四国/広島県

## 背景（課題・ニーズ）

当社では航空機胴体の一部の製造に携わっており従業員それぞれが、様々な形状で膨大な数の航空機部品を取扱っています。小部品などは、自製のパイプ台車を使用し運搬をしていましたが、長年の使用で台車の取っ手が取れてしまったものや、取手の長さが不十分でかなりの前傾姿勢で運搬をしなければならず、腰痛障害発生を危惧する従業員が増えていました。改善キーワードは運搬を今よりも『ラクに』。。。



# 改善！



部品台車の取手が短かく前傾移動が必須だった

小柄な女性でも前傾姿勢で一苦労

取手の改善で運搬姿勢がラクに！

身長関係なく姿勢が伸ばせる様に

部品運搬時の前傾姿勢による腰痛リスクが放置されていた

余剰パイプを使用し台車取手を延長し運搬しやすく！  
コストを掛けずにリスクヘッジ完了！

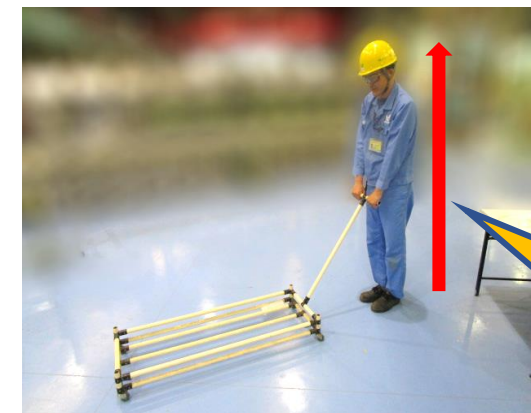
## やってみての効果

### 従業員の声（一例）

**Aさん**：前傾姿勢だと身体負担も大きいし周囲が見えませんでした。姿勢がラクになり周囲もよく見ながら移動できるので、安全度も増したと感じます。

**Bさん**：取手を改善したことで、台車の方向も変えやすくなり腰もラクになったので、仕事が捗る様な気がします！

など、従業員からは概ね高評価を得ることが出来た。腰痛災害発生の不安も減少し、安全で働きやすい職場として進化出来たと感じています。



高身長でもラクな姿勢で取手に手が届く様に改善実施！

### 背景（課題・ニーズ）

“危険に気づかず被災してしまう”転倒や挟まれなどの災害を防止するため「見える化」の工夫を進めたいが既存の標識に無いものは自主的に作成するほかなく、ゼロから作ることへのハードルがあった。

同時期、  
企業キャラクター「しばけん君」が  
新入社員のデザインにより誕生

しばけん君®



### 取り組んだプロジェクト内容

#### ①「しばけん君」を標識制作用テンプレートに採用!

安全管理者監修のもと、安全標識を制作するためのキャラクター画像素材や標識テンプレートを配布し、**工事担当職員がいつでも必要に応じて自主的に安全標識を制作**できるようにした。

また、社員同士の相互活用を促進するため、社内IT基盤を活用して安全標識を共有するポータルサイトも構築。

この場所の危険を知らせるには、  
どんな風に「見える化」すればいいかな…

テンプレートの例



#### ②より具体的に伝えるための標識づくり

テンプレートがあることにより、工事担当者が必要に応じて**注意事項を容易に標識として作成する**環境が出来てきた。

しばけん君＝”注意を促すアイコン”として周知することで、  
統一感とメッセージの明確化を促進し  
伝える効果を高める



### 得られた効果

主たる効果 ①工事担当職員が安全標識を自主的に制作し共有することで「見える化」を **お互いに工夫しあう習慣** が形成された

副次的効果 ②企業キャラクターが記載された標識で注意喚起を行うことにより、**誰が誰に対して注意を促しているのか伝わりやすい効果**を生んだ ⇒導入前に比較し転倒や挟まれなどの災害が減少



危険を  
気づかせよう

しばけん君を見かけたら  
気づいてください

しばけん君があなたに  
**危険**を伝えようとしています

気づく 気づかせる 環境づくり  
お互い築いていきましょう

# 作業場の転倒災害防止対策

ゼオンオプトバイオラボ株式会社

生産工程の成形機移設、レイアウト変更を行いました。設備機器の配管や配線、ホースが床の上を張っていて、通行の際に躓いて転倒する可能性があり、危険な状態となっていた。

不要な配線、配管の撤去と配管位置（壁面へ）変更し通路をすっきりさせた。



◆床の上を張っていた、配管、配線、ホースが無くなったことで、躓き転倒が改善され安全な職場が確立できました。また、作業性も向上して、ストレス無く作業が行える様になりました。

# 鏡の自分に誓おう 安全意識の向上

事業者名：東亜建設工業(株)西日本建築支店  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約150人  
地域：東海・近畿・中国・四国・九州ブロック

## 背景（課題・ニーズ）

1. 現場に鏡を設置し、職員・作業員とも毎朝作業開始前に鏡の前に立ち、「私は絶対に災害を起こさない」と鏡の中の自分に誓ってから作業場へ移動するルールを定めている。

## 取り組んだプロジェクト内容



TBM終了後に鏡の中の自分に「私は絶対に災害を起こさない」を声に出して誓い配置につくことで、安全意識の高揚を図った。

## やってみての効果

各々が作業前に安全に対する思いを込めることにより、安全意識の向上と指差呼称運動の啓蒙にも繋がった。

**鏡の自分に誓おう!**  
私は絶対に **ヨシ!**  
災害を起こさない 

# 職場巡視と自主保全活動の融合による 全員参加型のゴム練り工場安全化活動 3K(危険・汚い・キツイ)を(綺麗・快適・希望)へ

事業者名：株式会社フコク 群馬工場  
業界・業種：製造業  
従業員規模：1,150名（国内全拠点）  
地域：関東（群馬）

## 背景（課題・ニーズ）

ゴムの混練り工程は設備や作業環境の3K色が強く、若手の採用や技能伝承の為に職場の安全化や作業環境の改善が永遠の重要課題でした。管理者、安全衛生課の気付いた危険箇所と現場サイドの感じる危険対策の優先順位乖離や、現場の汚れが著しい為に巡視での細部確認や保全活動、設備改善が進み辛いといった問題により安全化対策の遅れが見られ、『ゼロ災』に向けた危険源対策活動を一丸となって加速する必要に迫られた。

## 取り組んだプロジェクト内容

### ①1回/週の清掃・保全活動と定期巡視 活動ボードで計画・実績を情報共有

全員清掃・保全活動



管理者・技術の巡視



活動ボードで計画、実績を情報共有



### ②巡視時のリスクアセスメントと 現場からの提案を合わせ対策検討

リスクアセスメント

作業頻度

作業内容	作業頻度	危険性
...	...	...

事故可能性

事故	発生頻度	被害
...	...	...

重傷度

重傷	発生頻度	被害
...	...	...

現場の安全化提案

提案リスト

提案内容	実施状況
...	...

実際の提案書



### ③各部署が協力し様々な安全対策を実施

回転部カバー設置



出入口安全バー設置



産廃廃棄階段設置



リフター安全装置追加



金型落下防止板追加



コロガシ配線空中化



荷台昇降機常設



非常口前チョイ置き防止



## やってみての効果

管理職、技術、保全、作業者が一丸となって4Sや安全点検、安全対策を推進する体制構築、情報共有と協業で以前より相互補完体質が飛躍的に高まった事で活動も大きく加速した。現場からの安全に関するアイデア提案も活発化し、関係者の意識も向上。**ゼロ災**継続中。

## 今後の目標や展望

参加者のレベルを底上げし、指導役を育成、活動が将来に渡り継続出来る様にしたい。関係子会社や仕入先にも紹介、展開していきたい。

# 安全協議会として取組む「腰痛防止」

事業者名：東芝インフラシステムズ（株）  
 社会システム事業部  
 業界・業種：建設業  
 従業員規模：約2,000人  
 地域：全国（東北）

## ・ 背景（課題・ニーズ）

浄化センター内工事の安全協議会（工事関係2社、維持管理会社、監督員で構成）の幹事会社として全社無事故無災害での工事完成を目指した。全社の共通作業として「しゃがみ作業」「持ち上げ作業」があり、「腰痛予防」を活動テーマの一つとして取組んだ。

## ・ 取組んだプロジェクト内容

「厚生労働省の職場における腰痛予防対策指針」に沿って腰痛予防体操の実施を計画した。

**職場での腰痛を予防しましょう！**  
 「腰痛予防対策指針」による予防のポイント

■ 指針の主なポイント

<労働衛生管理体制>

作業管理	作業方法、作業手順、体制など
作業環境管理	照明、床面、作業スペースなど
健康管理	腰痛健診、腰痛予防体操など
労働衛生教育	腰痛予防のための教育・指導



外部講師による出前健康づくり講座「腰痛予防」を安全協議会15名が受講した。

**出前健康づくり講座腰痛予防体操**

職場の予防・改善のためには、管理側の教育の強化と、ストレッチにより柔軟性を高めることが大切です。



★反対側も同様に行いましょう！

筋肉を強くする体操

15:00の休憩の際に動画を自動で放映し体操を継続した。




開設している全サイトにも動画を配布し実施を拡大している。



## ・ やってみたいの効果

講座受講後の感想は異口同音に「講師と対話をしながら和やかに楽しく学ぶことができた。体操を継続して腰痛防止に役立てる。」だった。会の連帯感も増し安全協議会として無事故無災害を継続できた。

## ・ 今後の目標や展望

社内で開設する全サイトに動画を配布した。体操を拡大展開して腰痛防止の定着を推進している。



# 「危険・有害要因の特定」による躓き・転倒防止

事業者名：東芝インフラシステムズ（株）  
 社会システム事業部  
 業界・業種：建設業  
 従業員規模：約2,000人  
 地域：全国（東北）

## ・ 背景（課題・ニーズ）

施工計画の際「危険・有害要因の特定」を行い、施工業者と着手前にリスクの解消策を立案している。本特定では「転倒する」が際立っていた。

## ・ 取り組んだプロジェクト内容

躓き・転倒のリスク改善を（1）段差の解消 （2）膝への衝撃緩和 （3）「角」の見える化 （4）雨天時の滑り止め （5）有効視野の範囲確保 の5つのアイテムに焦点を合わせて推進した。改善事例は、工事中のサイトで進んでいる類似内容から選抜した。

### 「危険・有害要因の特定」

危険・有害要因	発生場所	発生頻度	発生状況	発生原因	発生時期	発生場所	発生状況	発生原因	発生時期	発生場所	発生状況	発生原因	発生時期
足元への障害物	作業現場	高	頻りに発生	作業現場の整理整頓が不十分	作業中	作業現場	頻りに発生	作業現場の整理整頓が不十分	作業中	作業現場	頻りに発生	作業現場の整理整頓が不十分	作業中
段差	作業現場	中	頻りに発生	作業現場の段差解消が不十分	作業中	作業現場	頻りに発生	作業現場の段差解消が不十分	作業中	作業現場	頻りに発生	作業現場の段差解消が不十分	作業中
角	作業現場	中	頻りに発生	作業現場の角の見える化が不十分	作業中	作業現場	頻りに発生	作業現場の角の見える化が不十分	作業中	作業現場	頻りに発生	作業現場の角の見える化が不十分	作業中
雨天時の滑り止め	作業現場	中	頻りに発生	作業現場の雨天時の滑り止めの敷設が不十分	雨天時	作業現場	頻りに発生	作業現場の雨天時の滑り止めの敷設が不十分	雨天時	作業現場	頻りに発生	作業現場の雨天時の滑り止めの敷設が不十分	雨天時
有効視野の範囲確保	作業現場	中	頻りに発生	作業現場の有効視野の範囲確保が不十分	作業中	作業現場	頻りに発生	作業現場の有効視野の範囲確保が不十分	作業中	作業現場	頻りに発生	作業現場の有効視野の範囲確保が不十分	作業中

「転倒する」

### 1. 段差の解消

スロープを設置

### 2. 膝への衝撃緩和

ステップを追加

### 3. 「角」の見える化

トラクションを貼付

### 4. 雨天時の滑り止め

防滑人工芝を敷設

### 5. 有効視野の範囲確保

クッション材を使用  
反射テープを貼付

## ・ やってみたいの効果

施工前の「危険・有害要因の特定」は災害リスクを確認する手段として有効であり、改善すべき点も明確で「自分達のための安全改善！」に創意を結集できた。

## ・ 今後の目標や展望

維持管理における動線上の足元にも改善視点が拡大している。活動アイテムに加えて展開する。



# 災害の再発防止対策 (過去の災害事例の活用等)

事業者名：東亜建設工業(株)北陸支店  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約30人  
地域：北陸地方(新潟県・富山県・石川県・福井県)

## 背景 (課題・ニーズ)

建設業の死傷病災害件数は、労働安全衛生法制定等を契機に減少してきたが、ここ最近は停滞し(下げ止まりし)ている状況です。更なる災害減少を達成させるため、現場トップの決意と過去の災害の再発防止と危険感受性を高める対策が必要である。

## 取り組んだ活動の内容

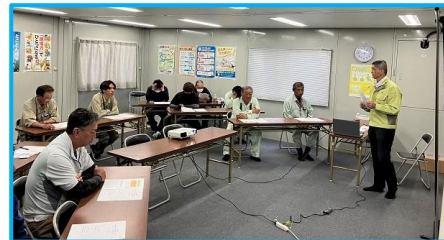
### ① 所長方針の表明

- 所長方針として『ゼロ災』を表明



### ② 災害事例の周知

- 安全教育訓練で、類似工種で発生した過去の災害と再発防止対策を周知
- 作業員休憩所や喫煙所等に、過去の災害事例を掲示



### ③ つまづき転倒の再発防止

- 過去のつまづき転倒の再発防止対策として、作業通路の段差箇所を明示し、指差呼称を実施



### ④ 巻込まれの再発防止

- 巻込まれの再発防止対策として、ミキサーに現場作成した蓋を設置(機械付帯の蓋は鉄板製であり、ミキサー内部)が確認できず、蓋を開けたままと、とっさに手等を入れてしまい巻込まれの危険



【取組み例として、国土交通省発注 新潟港(東港地区)岸壁(-12m)地盤改良工事(その1)の取組】

## 取組みの効果と今後の目標

類似工種で過去に発生した災害の再発防止対策を行う取組みで、建設現場の安全性を向上させることができる。更に過去の災害発生要因や再発防止対策の情報共有により、工事に従事する技術者や作業員の危険感受性を高める効果が期待できると考えている。

これらの活動を活性化させ、作業時に行う危険予知等もより効果が高い活動にして、建設現場の安全水準を向上させていきたい。

# クラウドカメラで現場を安全管理

## ～遠隔地の現場をリモート確認～

事業者名：東亜建設工業(株)  
鶴見白石工事事務所  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約50人  
地域：関東/神奈川

### 背景



海上工事を得意とする当社の現場では、事務所から現場までの移動に船舶が必要となる場合があります。陸上工事においても遠隔地の現場も多く、海上・陸上ともに現場までの移動に多くの時間を要するという課題があります。

一方で、働き方改革の実現に向けて建設業全体が取組む中で、いかに**効率良く働き、かつ安全に現場を管理する**かが各企業に求められています。

当社の一部現場ではクラウドカメラを設置し、PC、スマートフォン、タブレット端末等を使用して**現場状況をリアルタイムに確認しています。**

また、当社では現場担当と内業担当に分かれて業務を行うことがあります。カメラの設置により遠隔地(内業担当者)からでも、**移動時間をかけずに現場状況を把握**し指示が出せるため、多方面から現場を管理することができます。



### 内容

撮影した映像データは常時録画保存しています。データを見返すことで作業状況の振り返りをしたり、今後の作業方法の打合せとして利用できるため、有効に活用することができます。

作業方法の打合せは、実際の映像を確認しながら行うので、メンバー全員で共通認識を明確に持ち、**より現場に即した内容で実施することができます。**

また、カメラの電源にはソーラーパネルを使用しており、日中に充電した電力で作業時間外や夜間帯も撮影し続けることができるため、クラウドカメラが防犯対策や非常時の確認としても役立っています。



### やってみての効果・感想

- 移動に要する時間を書類作成などの業務に当てられたので効率よく仕事ことができました。残業時間を減らし、プライベート時間を確保することができたので精神的にも健康でいることができました。・・・Y職員
- 現場作業を行う前に、現場状況や作業方法を映像で確認できたので状況整理がしやすかったです。・・・K作業員



### 今後の目標

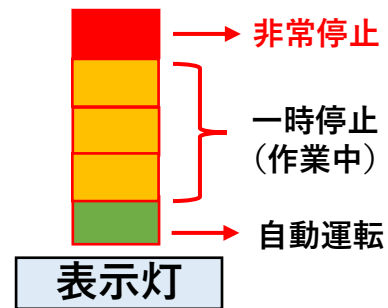
建設業で発生する災害は、発生件数こそ年々減少傾向にありますが、一度災害が発生すると重大災害につながる可能性が高いという特徴があります。当社で導入しているクラウドカメラを最大限活用し、現場に潜む災害につながる危険の芽を一つ一つ摘んでいこうと思います。

## 背景（課題・ニーズ）

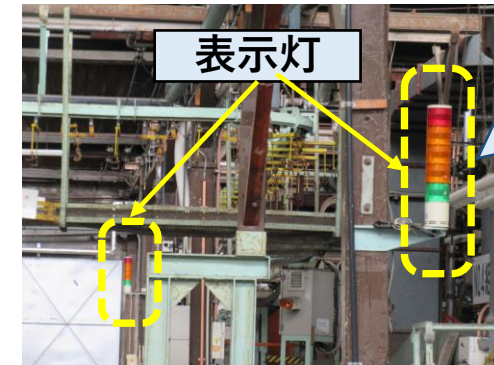
当社佐野工場では製品組立作業においては、同一ライン上の異なる場所において複数人での作業となるが、それぞれの場所からは他の者の作業状態が確認できず、どのような状態となっているのか判断ができない。通常は自動運転でラインを稼働させているが、ラインを一時的に停止させ製品の確認等が必要となる場合があるため、ライン上の何処の箇所で停止して作業を行っているのか分かりづらいとの声が現場作業員から挙げられた。

## 取組んだプロジェクト内容

ラインの何処の箇所で一時停止させて作業を行っているのかが一目で判断できるように表示灯を設置した。



点灯場所によって何処で一時停止して作業しているか分かる。



組立ライン上の作業員全員から見える場所に設置

## やってみての効果

ライン上の何処で一時停止しているか「一目瞭然」であり、各作業場所間での応援がやり易くなった。

## 今後の目標や展望

製品組立については、同一ライン上での作業が多く各人の意思疎通が必要であるため、安心安全に作業できるよう今後も取り組んでいきたい。

# 自然災害や労働災害等の緊急時における「応急措置」への備え

## 背景（課題・ニーズ）

### <課題>

自然災害や著しい積雪等により「救急車両を要請しても直ちに到着が困難」な状況のなかで、従業員が負傷したとき、他の従業員がとるべき行動について検討する必要がある。

### <ニーズ>

どんな状況下においても「直ちに応急措置」を施すための知識と備えが必要！！

## 概要

以下のセットを各建屋入口に設置した

種類	使用用途	備品	写真
救急セット	「直接圧迫止血法」 および 「止血帯法」  の止血措置が行える。	タオル 滅菌ガーゼ 滅菌救急三角巾 オキシドール 布切はさみ 使い捨て手袋 エレバン（絆創膏） 止血方法の手順書	
搬送セット	切断してしまった部位を保冷した状態で病院へ搬送し、再接着を目指す。	滅菌ガーゼ 瞬間冷却材 ジップロック 使い捨て手袋 ビニール袋 搬送方法の手順書	



全従業員の前で止血を実演

### <その他の取組み>

- 地震に備えた教育
- 心肺蘇生法(AED)
- 骨折時の措置法
- 簡易担架のつくり方



従業員とご家族の  
「安心」に向けて

# 物の落下による、 人に当たるリスクの減少

## 背景（課題・ニーズ）

物の落下により、下方にいる人へ当たるリスクを減少させる。

## 取り組んだプロジェクト内容

踊り場の足元に高さ10cm程度のつま先止め板を取付けることにより、物の落下リスクを減少させた。



## やってみての効果

人が歩く上部に踊り場や通路等がある場合は、つま先止めを設置することで、安全性をより担保できる。

# 安全確認・指差し呼称の定着にむけて ～指差し呼称事例の掲示と実践場所の「見える化」～

事業者名：東亜建設工業株式会社  
 横浜支店川崎工事事務所  
 業界・業種：建設業  
 従業員規模：20人  
 地域：関東/神奈川

## 背景（課題・ニーズ）

災害の発生において、その原因の8割を占めると言われるヒューマンエラーを効果的に減少させる「指差し呼称」についての安全教育を行っていましたが、後のヒアリングで「どうしたらよいか分からない」「どの場面でやればいいのか?」「つい忘れてしまう」というような声がありました。作業員の方々は「指差し呼称」の重要性は理解しているが、そういった理由で実践していない事も多いという状況があり、「指差し呼称」の定着に向けそれぞれの**作業場所に合わせたマニュアルや実践する場所の「見える化」**をすれば効果があるのでは?という考えから行ったものです。

## 取り組んだプロジェクト内容

### ①周知教育の実施

各作業場所における実践例を使用した周知教育の実施



#### 指差し呼称で安全確認

##### 指差し呼称を実践しましょう!

- ・掲示した指差し呼称は一例です。各自状況に合わせてください。  
 ※悪天候時、現場状況が変化した時など
- ・ダンプ降臨、重機巡回など常に行うものについては再出し義務可  
 ※自視確認は確実に行い、昼前初1台目などは再出ししましょう

最初は恥ずかしい、面倒臭いと感じるかもしれませんが、まずは作業場で毎月1つ決めた指差し呼称項目がありますので、それを確実に実践しましょう。

徐々に実践する項目を増やし、「指差し呼称」を定着させていきましょう。

#### 共通項目

①室内歩行移動時	②足元ヨシ	③安全確認ヨシ
④重機降臨時	⑤左右確認ヨシ	⑥停止ヨシ
⑦重機巡回時	⑧安全確認ヨシ	⑨後方確認ヨシ
⑩重機巡回時	⑪安全確認ヨシ	⑫右方確認ヨシ
⑬重機巡回時	⑭安全確認ヨシ	⑮右方確認ヨシ
⑯重機巡回時	⑰安全確認ヨシ	⑱右方確認ヨシ
⑳重機巡回時	㉑安全確認ヨシ	㉒右方確認ヨシ
㉓重機巡回時	㉔安全確認ヨシ	㉕右方確認ヨシ
㉖重機巡回時	㉗安全確認ヨシ	㉘右方確認ヨシ
㉙重機巡回時	㉚安全確認ヨシ	㉛右方確認ヨシ
㉜重機巡回時	㉝安全確認ヨシ	㉞右方確認ヨシ
㉟重機巡回時	㊱安全確認ヨシ	㊲右方確認ヨシ
㊳重機巡回時	㊴安全確認ヨシ	㊵右方確認ヨシ
㊶重機巡回時	㊷安全確認ヨシ	㊸右方確認ヨシ
㊹重機巡回時	㊺安全確認ヨシ	㊻右方確認ヨシ
㊼重機巡回時	㊽安全確認ヨシ	㊾右方確認ヨシ
㊿重機巡回時	㋀安全確認ヨシ	㋁右方確認ヨシ

### ②作業場所への掲示

- 毎日目に入る場所に実践例を掲示
- ・安全朝礼場所の掲示板
  - ・現場休憩所 など複数掲示



### ③実践場所の「見える化」

現場内の他と色違いのカラーコーンおよび文字にて実践場所の「見える化」



## やってみての効果

実践例の掲示と実践場所を「見える化」した事により、数値化はできないが道路横断時など「指差し呼称」の実践が増えていることを実感できた。  
 また、作業員から**自然と目に入るので実践しやすくなった**という声も多かった。

## 今後の目標

変化する作業状況のなかで各々が自発的に「指差し呼称」を実践できるように今後もアイデアを出し合い実行し、ヒューマンエラーによる災害ゼロを継続していくことを目標としています。



# 熱中症を予防するための見える化 ～作業環境の把握と改善～

事業者名：設楽ダム5号橋作業所  
業界・業種：建設業  
従業員規模：40名  
地域：中部/愛知県

## 背景（課題・ニーズ）

昨今の異常気象により、作業場所の外気温は連日30℃以上であり、建設業にとっては**熱中症をいかに防ぐかが毎夏の課題**である。本工事は橋脚高さが非常に高い(70m) 橋梁上部工事である。作業場所から地上に設置した休憩所までは10分程度の時間を有すること、技能実習生も多いことから、「誰でも、すぐに休憩できる設備」を整備することが熱中症を防ぐためには重要と考える。

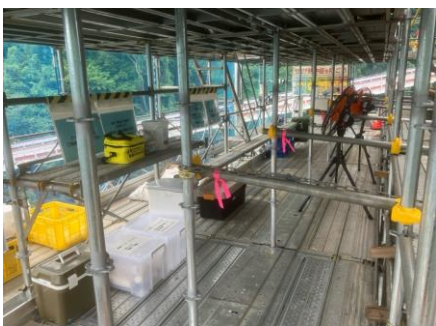
## 取り組んだプロジェクト内容

### ①作業環境の把握と周知



作業場所のWBGT値を常時測定するとともに、**31℃を超える場合は、自動メール配信により環境を把握。**その後、ネットワークスピーカーにて作業員に直接休憩の指示をし、ネットワークカメラで休憩の実施状況を確認。

### ②誰でも休憩できる設備



誰もが気軽に休憩できるように、**ベンチ、スポットクーラー、扇風機、ウォーターサーバー、熱中飴等を常備し、誰もが気軽に水分・塩分補給、休憩ができるように作業環境を整備。**

## やってみての効果

今夏のWBGT値の測定結果(R6.6～R6.9)は以下の通り。  
WBGT値**28℃以上**・・・**65日**  
(65日/122日 = **53%**)  
WBGT値**31℃以上**・・・**18日**  
(18日/122日 = **15%**)  
作業環境を確実に把握し、必要なタイミングで休憩を促し、水分・塩分補給等、休憩の状況を確認することで、**熱中症の発生ゼロを達成**できた。

## 今後の目標や展望

今夏の熱中症の発生ゼロは達成できたが、来夏も同じ現場で迎える。熱中症に限らず、「**状況に応じた最適な安全対策を考案→実施→確認→改善**」し、**全工期内の無事故・無災害を達成**する。



# 「まねる」から「まなぶ」で 安全の「見える化」を推進



ヤマダイインフラテクノス(株)

事業所名：技術開発部  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約160名  
地域：中部/愛知県

## 課題・背景

当社はこの5年間で社員数は85名から162名へと1.9倍に倍増し、急成長を遂げている塗装会社です。今年度4月にSAFE-Cに加入させていただき、まだ見よう見まねで活動しているところです。どんな活動をしたらいいのか？がまだ見えていない状況です。

## 取組んだ運動

SAFE-Cの活動として「まねる」から「まなぶ」を合言葉に安全活動を進めることしました。そこで、小さな気づきを報告してもらうために報告フォーマットを作成し水平展開しました。

SAFE-C 現場改善シート【安全の「見える化」】													
ヤマダイインフラテクノス(株)													
課題：「足場階段で足が滑る転倒災害を撲滅」 きっかけ：○/○ (ヤリハット)・気がかり・ケガ・赤ちん・その他( )	実施期間： 4/10～6/10      現場名：○○橋りょう現場												
P: 現状：雨天時に新入社員のAさんが足場の階段で泥の付いた安全靴で踏板に足を掛けたときに滑って転倒しそうになった。 発生日：2024.04.10 原因の想定：泥の付いた安全靴&つま先で足を掛けた ケガの想定：転倒し足を骨折する可能性があった。 類似の体験等：作業員の○○さんが荷物を両手に持って移動中足が滑って転倒した。	現状写真 4/10 												
D: 対策の検討：4/20 ・SAFE-Cの類似事例から●●建設の対策をベースに自社に合う対策を検討した。 対策の実施：5/10 ・足場の階段下に網目の泥落としマットを設置した。また、靴底ハードブラシの使用検討も行った。	改善写真 5/10 												
C: 対策の検証：6/10 ・メンバー全員で導入品を扱い、効果を確認した。⇒泥落としマットの場合、そのまま歩くだけで踏んで立ち入る事が多く機能を発揮しない。ハードブラシの場合靴底を擦って立ち入る。 ・他現場に水平展開を行った。	A: 再発防止の歯止 (ルール化)：○/○												
結果回覧 <table border="1"> <thead> <tr> <th>支店責任者</th> <th>現場代理人</th> <th>主任技術者</th> <th>担当者</th> <th>協力会社</th> <th>協力会社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山田</td> <td>伊藤</td> <td>佐藤</td> <td>岸</td> <td>井上</td> <td>後藤</td> </tr> </tbody> </table>		支店責任者	現場代理人	主任技術者	担当者	協力会社	協力会社	山田	伊藤	佐藤	岸	井上	後藤
支店責任者	現場代理人	主任技術者	担当者	協力会社	協力会社								
山田	伊藤	佐藤	岸	井上	後藤								
<input type="text"/> : 登録時記入													

## 今後の展開と展望

- ① まだ報告数も少ないため「まねる」から「まなぶ」を定着させていきます。
- ② 他職場の改善報告が見える活動を進めます。
- ③ 改善の「水平展開」を目指します。

【展望】 その結果小さな気がかりを黙認しない安全職場を実現させていきます。

# 台車専用運搬台車で腰痛防止！

事業者名：株式会社ササキ  
業界・業種：製造  
従業員規模：約175人  
地域：東北・北陸/山梨

## 背景（課題・ニーズ）

株式会社 ササキでは“**ゼロ災で行こう**”をモットーに日々業務を行っている。  
現場では台車を使用することが多く、体に負担となっている側面を持っている。そこで負担軽減と安全性を考慮し台車専用運搬台車を導入した。

## 改善前

### 肩腰への負担大



手持ち運搬だと体への負担と両手が塞がるため危険。

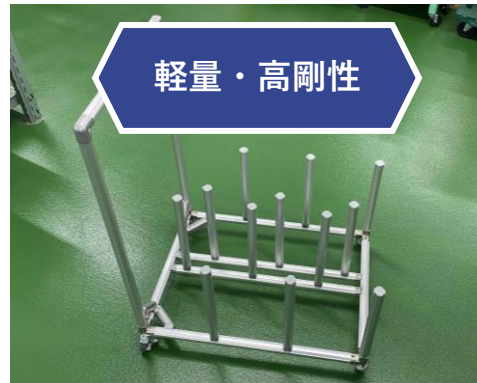
### 台車が崩れる危険性



積み上げでの移動や保管は危険が伴う（不安全行動）

## 改善後

### 台車専用運搬台車を導入



運搬時の安全性を確保、1回で複数台同時運搬。

### 安全かつ体への負担軽減



格納場所としても機能するため保管時も台車が崩れる心配がない、移動時の負荷も軽減された。

## やってみての感想

台車を移動する際、体に負担になったり、不安定な作業で危険な状態もありましたが、運搬時の体への負荷および危険度を低減し、1回で複数個の台車を運搬することができ業務の効率を上げることができた。  
運搬目的だったが格納場所としても機能することがわかり改善度はとても高い効果を得ることができた。

# 安全カレンダーの作成・掲示による 安全意識の高揚

事業者名：東芝インフラシステムズ（株）  
社会システム事業部  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約2,000人  
地域：関東ブロック

## 背景（課題・ニーズ）

現場では、忘れた頃に類似災害が発生している。  
継続的に安全意識の維持向上を図りたい。

## 目的

重点実施事項にかかわるイラストを日々目にするカレンダーに掲載。  
安全意識の維持・高揚を図る。

## 取り組んだプロジェクト内容



A 2 壁掛け版



A 5 卓上版（英語版）



壁掛け版と卓上版（国内用）



弊社建設部門では毎月重点実施事項を定め現場の安全管理に活かしている。各月の重点実施事項にそった安全スローガンを社員から募集し、それに関するイラストを建設部門イメージキャラクターを使用して作成、日々目にするカレンダー（A2サイズおよびA5卓上版）に掲載し、国内外の建設現場作業所や協力会社に配付。安全意識の維持・高揚につなげる。

## やってみての効果

配布先を対象にアンケートを実施したところ、ほとんどの方が「安全（意識高揚）に役立ちそう」「この取り組みを続けてもらいたい」との意見をいただいた。また、使用後のイラスト部分を現場に掲示し、注意標示として使用する例もあった。

# 危険感受性向上 危険体感VRトレーニングの取り組み

事業者名：栗田工業株式会社  
 業界・業種：建設業（水処理装置/薬品）  
 従業員規模：約8,000人（連結）  
 地域：東京都

## 背景（課題・ニーズ）

クリタグループは、2020年以降、労働災害が増加し、特に経験の浅い従業員の被災が多いという課題に直面。

## 目的

クリタグループではこの問題に対応するため、VRによる安全体感を導入。この取り組みにより、従業員は経験不足を補い、危険感受性の向上と安全意識を高めることができます。また、このVR体験を国内外のグループ従業員やパートナー企業に広めることで、各拠点での自律的な安全意識向上の促進を目的としています。

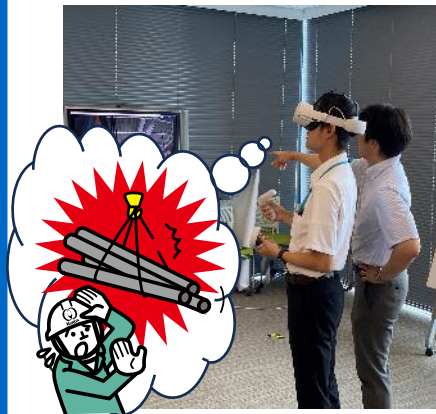
## 取り組んだプロジェクト内容

### VR体感トレーニング

- ・クリタGr及び各拠点での安全大会
- ・新入社員研修
- ・フルハーネス特別教育
- ・国内外の事業所でのVR体験キャラバン
- ・プラント建設現場事務所

### VRコンテンツ（一例）

- ・仮設足場,開口部,脚立からの墜落/転落
- ・感電
- ・回転体への挟まれ/巻き込まれ
- ・吊荷の飛来落下



栗田工業での体感の様子



現場事務所での体感の様子



海外グループ会社での体感の様子

## やってみての効果

2024年度に始まったこのプログラムは、半年間で約300人の受講者を迎えました。受講者からのフィードバックによると、96%がトレーニングを受けたことで危険感受性が「非常に高まった」または「ある程度高まった」と回答しており、「実際の労働災害を経験することなく現場の危険性を体感できた」との声も寄せられています。これは社員の危険感受性向上、安全意識向上へのきっかけとなっています。



今後は、より記憶に残る体験機会となるような工夫を重ね、関係者全員の安全意識向上により労災ゼロを目指します。

## 背景（課題・ニーズ）

- 当グループでは薬品を使用する作業が多く存在していることから、薬傷災害が毎年発生しており、その防止が課題
- 薬傷災害の原因の1つは「個人用保護具を正しく着用できていない」
- 毎日同じ薬品を取り扱う作業を続けていると、次第に慣れが生じて薬品の危険性に対する意識が薄れ、規則を守る意識が低下してしまいがち

## 目的

薬品から身を守る『最後の砦』である個人用保護具の正しい着用方法・ルールを、マネキンを使用して啓蒙活動し、作業者の**危険感受性**を向上させる

## 取り組んだプロジェクト内容

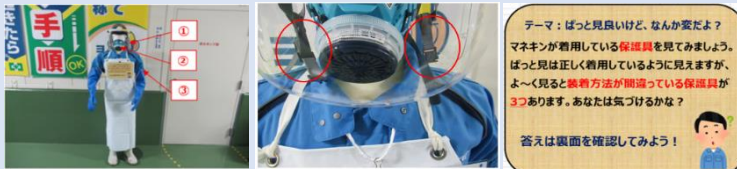
### 共通スローガン

『マネキンを観て真似て 我が振り直そう 保護具の着用』

週ごとにテーマを設け、薬品取扱者に似せた保護具着用の“まちがいさがし”マネキンを展示

### 第一週

事業所で見かけるちょっと違う事例  
～ぱっと見よいけど、なんか変だよ？展示～



一見正しい保護具を着用しているように見えるが、着用方法に間違いがある例を展示。  
「フェイスシールドの顎ひもを締めない」などの間違いが3つ用意されている。

### 第二週

ルール違反？怪我する事例  
～危ないよ！すぐに直そう間違い探し！展示～



正しい保護具を着用していない例を展示。  
本来つけるべきであるフェイスシールドや防毒マスクを着用していないなど、同じく間違いが3つ用意されている。

### 第三週

事業所の模範！皆で真似しよう正しい事例  
～素敵だね！見習って真似てみようっ、展示～



正しい保護具着用例を展示。  
第一、二週で間違った保護具、着用方法に対して、本来の正しい姿を最後に確認できる『まとめ』となっている。

## やってみての効果

### まちがいさがし体験者の声

- 展示を見た作業者が実作業に照らし合わせ、自分事のように捉えることができた
- 写真の掲示物よりも目に入りやすく、職場全体で話題となり同僚同士での声掛けのきっかけとなった
- 作業未熟練者にもイメージしやすく、保護具着用の正しいルールを「楽しみながら学ぶ」ことができた
- 来訪者に「マネキンと同じ格好ですね！」と声をかけられ、普段作業をしていない人にも正しいルールを理解してもらえた
- 第二週の間違った保護具の着装状態を見て「ゾツとした」・・・危険感受性の向上に寄与

## 今後の予定

事業所毎の作業特性・ルールを反映し、グループ会社 他3事業所でも順次展開中

※2024年10月末時点  
6事業所中3事業所に展開済み

「安全な職場づくり部門」

## 健康・安全についての全社員教育の実施 ～安全な作業遂行力のためには健康な体が不可欠！～

チーム名：SAFE KOTOBUKI  
事業者名：寿精版印刷株式会社  
業界・業種：製造業  
従業員規模：496人  
地域：東京 / 大阪

### 背景（課題・ニーズ）

社員が日常的に健康に気をつけてもらうことで健康保持増進。  
また労働災害ゼロ化に向けて、安全に関わる内容の教育を実施したい

### 取り組んだプロジェクト内容

全社員496人を対象に病気のリスク等の健康に関わる内容や、ヒヤリはっと活動の進め方等の安全に関わる内容の社員教育の実施（年7回実施）

▼各部署の教育の様子（オンラインで資料を共有し、教育している）



### 健康に関する教育内容

- メンタルヘルス
- 肝臓病
- 脂質異常症
- コロナウイルス対策
- 感染症対策
- 休養について
- ロコモティブシンドローム
- スマートライフプロジェクト

2017年～  
継続的に実施

### やってみての効果

- 社員教育を通して、健康・安全に対する意識向上につながった。
- 「健康経営プライト500」認定取得にもつながり、対外的にも健康・安全に対する姿勢が認められた。



### 今後の目標や展望

- 新たな内容で社員教育を行う
- 教育を繰り返し行うことで、労働災害ゼロ化を目指す
- 動画形式での社員教育を実施することで、更に分かりやすく社員教育を行う。



# 安全な照度を確保 した職場づくり

事業者名：東亜建設工業(株)東京支店  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約150人  
地域：関東ブロック

## 背景（課題・ニーズ）

建設工事の現場では、作業場所や作業環境に応じた照明器具が必要となる。従来の物では照度が不足していたり、持ち運び・取り回しに不具合があるなど、改良の余地があるため、より良い照明器具が求められている。

## 取り組んだプロジェクト内容

## 新たな器具の導入・試用・使用

### ①足場内LEDテープライトの使用



### ②通路部LEDチューブライトの使用



### ③バッテリー式バルブライトの使用



### ④高照度ヘッドライトの使用



## やってみての効果

安全な照度を確保することにより、移動・作業の効率化、つまづき・転倒の防止につながられた。特にLEDテープ・チューブは従来の電球の物よりも、明るく、割れず、長持ちし、少消費電力、かつ、全体が光り自在に曲げられ設置場所を選ばず照らせるということでも有効であった。今後も新たな照明器具等を導入・試用し、より良い物の活用を社内・関連会社に水平展開し、安全な職場づくりを進めていきます。

# トンネル工事現場における立入禁止エリアの明示 (LED光線照射を活用した見える化)

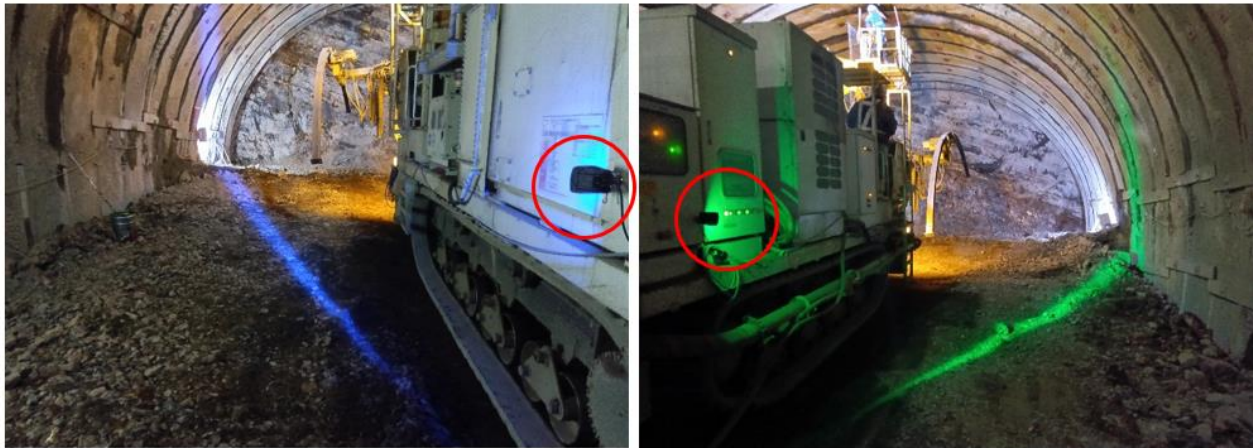
事業者名：寿建設株式会社  
業界・業種：建設業  
従業員規模：96人  
地域：東北/福島県

## 背景（課題・ニーズ）

トンネル掘削作業時の立入禁止エリアをその都度、カラーチェーンやカラーコーンで区別していたが、移動の手間、また設置忘れなどがみられた。

## 取り組んだプロジェクト内容

### 支保工建込時、切羽立入禁止区域の見える化



### ずり出し中の立入禁止区域の見える化 看板照射するように設置



## やってみての効果

カラーコーンの設置手間がなくなり常に立入禁止エリアが見えることで働く人にも危険個所の意識付けができた。

## 今後の目標や展望

今後も「見える化」に特化した現場づくりを目指したい。



# 作業中の合図や指示の音声を拡声器で作業場全体に共有 (情報の共有によるリスク回避)

事業者名：寿建設株式会社  
業界・業種：建設業  
従業員規模：96人  
地域：東北/福島県

## 背景 (課題・ニーズ)

重機を使用して大型ブロックの積込などを行っている際に、大型ブロックは重量物なので作業中に大型ブロックが落下するリスクがあり、**重機オペレーターと合図者**の間には意思疎通があり作業状況がわかっているが、**周囲で他の作業をしている作業者は作業状況が分からないので、万一落下等があった場合に危険回避行動の遅れが危惧された。**

## 取り組んだプロジェクト内容



作業場所に拡声スピーカーを設置し、**重機オペレーターと合図者の会話が拡声スピーカーを通して作業場全体に放送され、現場にいる誰もが作業の状況をリアルタイムで把握できるようにした。**



## やってみての効果

**作業場所付近で他の作業をしている作業者にも危険作業の情報が常に聞こえているので安心して作業が出来るようになった。**

## 今後の目標や展望

**今後も安全を具現化した取り組みを推進していきます。**

# 機械設備の改良で高所からの転落防止 (既成概念からの発想の転換)

事業者名：寿建設株式会社  
業界・業種：建設業  
従業員規模：96人  
地域：東北/福島県

## 背景 (課題・ニーズ)

トンネル工事のコンクリート積替え作業時に、アジテーター(生コンクリートを攪拌する機械)の上部に上がる必要があり、転落防止用のセーフティブロックは毎回使用していたが、根本的な改善対策は無いか検討していた。

## 取り組んだプロジェクト内容



側面に「折りたたみ式足場」を作成し設置した。



## やってみての効果

アジテーターに昇らずに、本体の側面から作業が出来るようになったので、転落リスクは解消された。

## 今後の目標や展望

今後も「昔から当たり前」に疑問を持って改善していきます。



# 労働安全部発足！ ～本社による組織的な安全衛生管理～

事業者名：フジパングループ本社 株式会社  
業界・業種：製造業  
従業員規模：約16,000名  
地域：全国（沖縄を除く）

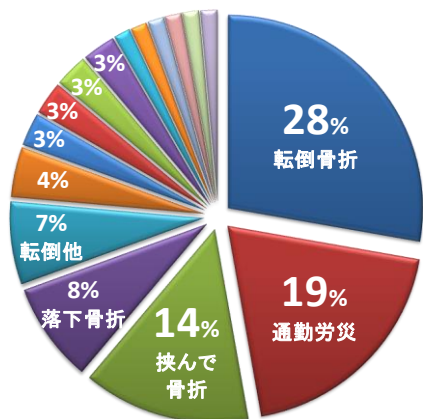
## 背景（課題・ニーズ）

労働災害をなくすための『統一性のある客観的な考え方と行動』が必要という考えから、令和6年7月に労働安全部を発足。これまでの各工場、店舗が実施する安全衛生取り組みが中心の体制から、労働安全部が発足以降、全国にある43工場の工場長などの管理者に対して、安全衛生教育（リスクの見方、原因・対策の考え方等）のポイントを指示、各工場が実施する好事例の教育を展開、教育の実施状況の管理などを通して、組織的な安全衛生管理、労災防止対策に取り組んでいる。

## 取り組んだプロジェクト内容

### ●各工場の労災について分析

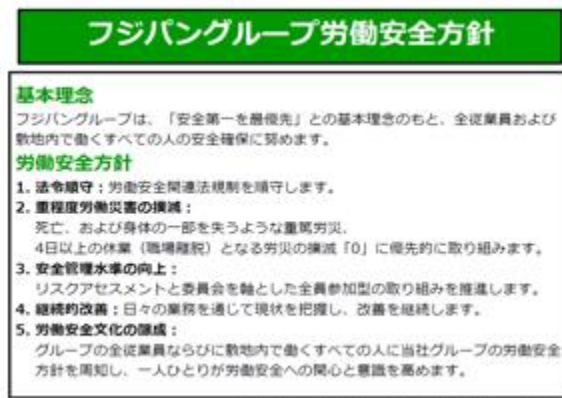
(4日以上休業労災分布)



**まずは  
挟まれ・  
巻き込まれ  
を無くす！**

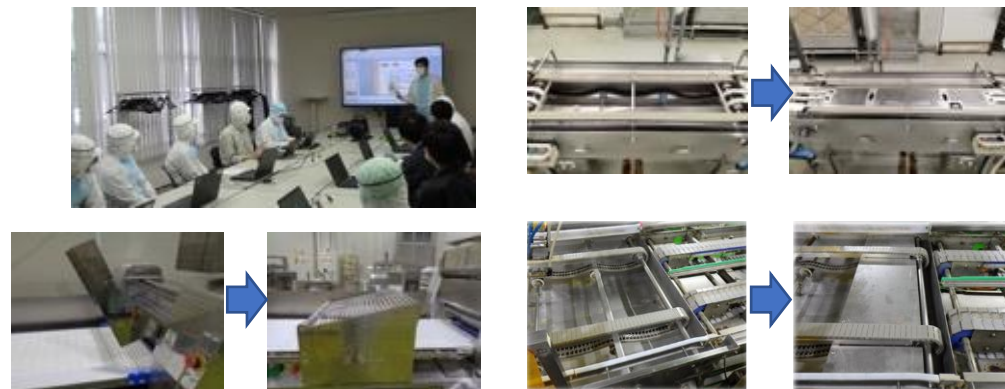
⇒本社報告資料をデータ分析できるようにシステム化（1～10月）

### ●経営トップによる安全衛生方針の表明



⇒これまで各々で取り組んでいた労災対策をより効果的な対策とするため、社長が各工場長に対し意思を表明。

### ●各工場にISO45001に準じた教育を実施



⇒ISO45001からリスクアセスメントと全員参加型の取り組みの重要性を各工場長に教育。挟まれリスクのある危険源にカバー設置や変更を展開。

## やってみての効果

グループ全体で同じベクトルで活動できるようになっている。労働安全に対して表立った活動がしやすくなっている。

## 今後の目標や展望

新人教育内容の統一化、世代別教育の充実、組織を拡大しパトロールと現地指導のスピードアップ、全員参加型の取り組みで労働安全文化の醸成。

## 遊休装置を活用した 包装作業の省力化・安全化

事業者名：オリアント化学工業(株)  
業界・業種：化学工業・製造業  
従業員規模：230名  
地域：関西/大阪府

### 背景（課題・ニーズ）

当社では現場で作業を行う一人ひとりが、日々の作業を“安全に”、“ラクに”、“早く”できる様に考えて作業を行うよう心掛けている。その為、ボトムアップ型の改善提案活動推進に積極的に取り組んでいる。各職場には改善活動を推進する改善委員が任命され、定期的開催される改善委員会では、各職場の優秀な改善事例が持ち寄られ、改善の社内共有が図られている。近年、60歳以降も現場で活躍する社員の増加に応じて、“ラクに”できる作業の省力化改善が多く寄せられている。

### 取り組んだプロジェクト内容

#### 包装作業の省力化

従来の包装作業では、製品10kgの入ったポリ袋を片手で持ち上げ、もう片方の手で外装にするクラフト袋の口を広げながら、その10kg入りポリ袋をクラフト袋に収める作業（写真①）を行っていた。そこで、遊休品の治具（写真②）を活用して、クラフト袋の口を広げて袋が自立できる（写真③）ようにした。これにより、両手で10kg入りポリ袋を持ち上げて、そのクラフト袋に収めることができる（写真④）ようになった。



写真①



写真②



写真③ 治具の口元を切断、クラフト袋が大きく開口する様にした。



写真④

### やってみての効果

- 腕力に任せた従来の包装作業は、片腕に10kgの負荷がかかり、疲労が蓄積すると腕や肩、腰を痛める恐れがあった。遊休品治具を活用した省力化改善後の包装作業では、両腕を使って大きく開口する自立したクラフト袋に収めることができ、ラクに作業ができる。
- 従来の包装作業は、一回でクラフト袋に収まらなければ、何回か試みるうちに袋がしわくちゃになる事もあった。早くきれいに作業ができる。

# 現場の見える化

～見える危険から見える安全に変えよう～

事業者名 : 大有建設株式会社  
業界・業種 : 建設業・製造業  
従業員規模 : 400人  
地域 : 愛知他

## 背景(課題・ニーズ)

本工事における切削オーバーレイでは、**重機操縦者からの死角**や**交差点などの複雑な規制形態**などの危険が存在しており、災害および事故防止の取り組みに努めてきました。  
今回紹介する取り組みは、現場の見えない・分かりづらいについて**対策および共有**を図った内容となります。

## 取り組んだプロジェクト内容(見える化)

接触 防止



タイヤローラーに取り付け  
重機操縦者の視認性UP

交通 規制



オリジナルバルーンの設置  
規制形態の視認性UP

意識 共有



3Dモデルによる規制状況説明  
現場状況のイメージUP

## やってみての効果

視認性を高めることにより危険な位置にいる人に対して早めに知らせたり、動けたりするため、作業への支障を最小限にして安全に進めることができました。また、朝礼で規制形態を伝えることで作業員が現場の動きをイメージできるため、意見をいただける時もありました。

# 安全なインフラ整備を追求

事業者名：大有建設株式会社  
業界・業種：建設業・製造業  
従業員規模：400人  
地域：全国

## 背景（課題・ニーズ）

当社は主に道路工事を請け負う施工業者であり、作業に合わせた下請業者を取り纏め、施工体制を編制し全国で施工管理を行っている。昨今の時代の変遷による新しい法規制の制定や、既存の法規制の更新に企業としても素早く柔軟に対応することが求められている。それに加え、道路工事特有の作業環境の狭さや昼間・夜間施工といった環境下において、労働者を守る為の安全管理が施工管理者として最優先業務となる。

## 取り組んだプロジェクト内容

### 労働安全衛生規則の一部改正に対応



推奨される3点支持の手すり付き昇降設備の現場配置

### 最新技術の活用



下請業者を集めた、自社講師によるテールゲートリフター係る特別教育開催

### 最新技術の活用



ICT技術を活用した道路規制を伴わない3D測量業務

### 頻発事故への対策



道路上の1車線内作業で発生する躓き事故対策としてコードレス機材の使用

### 夜間現場への適応



重機と人の分離を見える化し、夜間施工を逆手に取った安全管理

## やってみての効果

法規制の制定・更新に対して、当社及び下請業者と一丸となって対応し、最新技術を活用することで、様々な作業環境にも適応が可能となった。その結果、公衆災害を含んだ労働災害は発生せず、現場に携わる全ての人とその家族へも安全と安心を提供できた。

## 今後の課題

「いま」という現在は未来への通過点であり、無事故・無災害は終わりの無い長期的目標となる。それ故、施工管理者として、企業として常に新しい課題の収集に努め、その対応・対策を熟考し、当社を取り巻く全てと共にゼロ災を継続していくことが必要である。

# 高速道路の規制内の安全確保

～第3者から作業員を守るために～

事業者名：大有建設株式会社  
 業界・業種：建設業・製造業  
 従業員規模：400人  
 地域：愛知他

## 背景（課題・ニーズ）

本工事では高速道路の舗装補修工事を行いました。供用車線を通過する一般車両は時速70km/h以上で走行するため規制内への誤進入や規制突入事故は被害が大きな事故につながります。

そこで、**第3者への注意喚起**と**作業員への周知方法**について対策を行い、事故防止の取り組みに努めてきました。

## 取り組んだプロジェクト内容



LEDテープライトによる  
施工箇所の視認性確保



規制テープ一部にオリジナルバルーンの設定  
車線規制材の視認性確保



施工機械の直近で出入りを  
周知する看板の設置



緊急時は監視員が誘導棒の緊急ボタンを  
押すと全誘導員に警報が鳴り、  
作業員に伝えるようになっている

## やってみての効果

第3者からの視認性を確保することで注意喚起に繋がり施工箇所付近では走行速度を落としてくれる車両などもあり、リスクの低減ができた。また、同時に作業箇所の照度の確保もでき、夜間作業時のリスク低減にもつながった。緊急時ボタン等の緊急対策は実際には使用する機会はなかったが、朝礼時などで定期的に緊急時の対応を周知することで安全意識の向上が図れたと感じている。

# ～安全な作業環境の確保～

## 安全対策の「多重化」によりヒューマンエラー防止を図る

事業者名：大有建設株式会社  
業界・業種：建設業・製造業  
従業員規模：400人  
地域：愛知他

### 1. 重機の稼働範囲内における作業者の接触・挟まれ事故防止の為、立入禁止措置と緊急停止装置の2重対策を設け、事故防止効果の向上を図った

#### 【背景】

建設機械が作業をしている周辺においては、機械操作者からの**死角**や**急な方向転換(旋回)**があり**危ない！！**  
建設業に従事する者でなくともわかりそうなことであり、このことを全く知らずに建設現場に従事している者はほとんどいないだろう、しかしながら重機が稼働している範囲内での**接触事故**や**挟まれ事故**は**毎年のように発生**している。

なぜだろうと考えると、その要因の一つには**ヒューマンエラー**によるものがある。

『考え事をしていて、作業範囲内だと気づかなかつた、重機からは十分離れているつもりだった』などの原因を作り出す要素は《忙しさや経験不足、目測誤り》などがあり、複数の人間が作業する以上、全てを取り除くというのは難しいと言える。

では、ヒューマンエラーによる事故は防ぐことができないのか？そんなことは無い、人間が間違えてしまう部分、気づけない部分は**機械的に補ってあげれば良い**、そう考え、本対策の導入に至った。

### 2. 実施写真



対策① 作業範囲内への立入禁止措置  
作業箇所を物理的に封鎖することで気づかず立入ってしまう**ヒューマンエラー**を防止



対策② 緊急停止装置付建設機械の活用  
作業半径内に写真タグを携帯した作業員が侵入すると機械が検知、自動的に操作を停止する為、目測不足による機械離隔不足の**ヒューマンエラー**を防止

### 3. やってみたいの効果

建設機械と作業員の接触に関わるヒヤリハット報告が、導入前と比べ圧倒的に減っており、ヒューマンエラーによる事故発生リスク低減効果があると感じている



# 建設機械による労働災害をなくすために 私たちに何ができるか

事業者名：大有建設株式会社  
業界・業種：建設業・製造業  
従業員規模：400人  
地域：愛知県他

## 1. 建設機械による災害を防ぐため、死角の多い大型建設機械について作業員接近監視装置を使用し、機械と作業員のはさまれ・巻込まれ事故防止の向上を図った

### 背景【課題・ニーズ】

建設機械の事故発生状況として上位に来るのが、はさまれ・巻込まれ事故である。左記の事故が発生してしまうと怪我では済まないことが多く被災者の未来を奪ってしまうことが多くなる傾向がある。事故発生の原因として考えられるのは慣れからくる油断、工事進捗による焦りが要因として挙げられる。作業員・オペレータも一人の人間であるため、すべてを完璧に安全対策をするのは不可能であるため、AI機能等の技術を用いて人間では配慮しきれない部分を補ってもらい、重大事故を防止するため下記の対策を行った。

## 2. 建設機械事故防止対策実施写真

重機取付型セーフティカメラシステム使用  
作業員の接近をAI機能による映像とアラート音で注意喚起を行う



作業員接近感知装置使用  
ICタグを所持した作業員の接近をアラート音・警告灯で注意喚起を行う



## 3. やってみたいの効果

今回対策を実施し、約4か月間の大型建設機械を用いての工事を行っていたが、無事故・無災害で工事を終わることが出来た。オペレータにも感想を聞いてみたが特にAI感知による映像確認は非常にわかりやすく好評であった。



信用と知識と知をもつて、  
安心・快適な生活環境づくりに貢献する  
大有建設株式会社

## ～安全な現場環境の構築～

現場内の**接触事故に繋がる事項**を**見える化**して安全を守る！

事業者名 : 大有建設株式会社  
業界・業種 : 建設業・製造業  
従業員規模 : 400人  
地域 : 愛知他

### 1. 安全装置機器を活用して、機械と作業員の接触事故防止を図る

昨今現場では**外国人労働者**も増えているため、**視覚化**することで言葉の壁を越えて事故を防ぐ

1. 機械の作業範囲を**見える化**して、注意喚起を図る
2. オペレータが目視確認できない死角を、**映像化**と**音響化**により無くす

#### 機械稼働範囲の見える化



#### 死角の見える化・



### 2. やってみたいの成果

稼働範囲の見える化により、重機と人との接触範囲への立ち入り機会が少なくなった

### 2. やってみたいの成果

新技術の安全機器を情報収集をしどんどん取り入れ「ゼロ災」活動を継続していきます



# 菱和建设

## オリジナルポスターで 安全意識向上!



事業者名：菱和建设株式会社  
業界・業種：総合建設業  
従業員規模：100人  
地域：東北/岩手県

イメージキャラクター  
りょわん

### 背景（課題・ニーズ）

2022年に労働災害が発生。社内や各現場事務所の目に見える位置にポスターを掲示し、日常的に安全意識を高めるためオリジナルのポスターを作成し掲示した。

### ポスター例

#### グーパー運動



新ヒヤリハット報告

#### エイジフレンドリー



声掛けヨシ!運動

### 掲示の様子



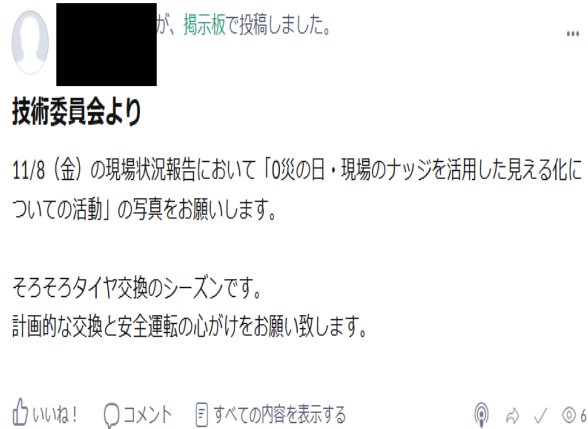
年に2回のデザイン変更により  
恒常化を防止。

全現場、全事業所に掲示。安全意識の向上により、労働災害ゼロ1000日を達成。継続した安全活動をおこなっていきたい。

## 背景（課題・ニーズ）

建設業における安全は、何よりも優先されるものだからこそ、その取り組みには天井がない。それ故に、取り組み自体が停滞し、単調になってしまう。そこで安全意識向上のため、月に一回、全社員が集う会議の日を「ゼロ災の日」として制定した。この日は各現場が「見える化」の活動を行う。その活動内容は、社内掲示板(インターネット)で、全社員に共有される。

## 取り組んだプロジェクト内容



忘れないように社内掲示板(インターネット)で呼びかけ！！



①手や足を掛ける所に赤マーク表示

②重機の作業半径表示



③ダンプに積載ライン表示

## やってみての効果

「ゼロ災の日」に行く「見える化」活動を全社に共有することで、良い事例を学び、各現場で活かされている。安全な活動が積み重なることで、安全意識が刺激され、安全への取り組みの単調さが取り除かれている。



# 見える化の共有

事業者名：東野建設工業株式会社  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約40名  
地域：岩手県、宮城県

## 背景（課題・ニーズ）

建設業は、「安全第一」のもと現場運営をしている。しかし各現場が離れており、安全に対する取り組みが実施されているかどうか掴みにくい。また、現場同士で良い事例を共有しにくい。そこで、毎週、ある課題に対しての取組みを、社内掲示板(インターネット)で共有・把握を行っている。なお社内掲示板(インターネット)は、毎日、現場状況報告をする場でもあるので、全社員が欠かさずチェックする環境である。

## 取り組んだプロジェクト内容

さんが、会話を開始しました。

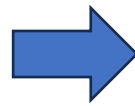
**技術委員会より**

今週の金曜は、各現場の安全掲示板の状況写真を共有してください。

いいね! コメント すべての内容を表示する

各現場に対して、「お題」を提示。

今回は安全掲示板！不備がないか全社で確認！



工事名：[redacted] 工事  
工期：令和6年3月5日～令和6年12月20日  
担当：[redacted]  
本日の作業内容  
9号集水井  
集水ボーリング №6・5 8/12本（400/600m）

明日、現場稼働となります。

工事名：[redacted] 工事  
工期：令和6年9月4日～令和7年2月25日  
担当：[redacted]

【本日の作業内容】

- 仮設工：作業ヤード作設：工事用道路盛土（498.3m3/1,600m3）
- 仮設工：安全施設整備等

明日、明後日は休工です。

## やってみての効果

お題(課題に対しての取組み)は、現場の他にも現場事務所や車両に至るまでの5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)に関わるものから、現場の安全に関わるものまで。全社員の目に入るので、安全意識の向上につながった。

# 新規入場者・若手労働者への対応

事業者名：東亜建設工業株式会社  
横浜支店横須賀工事事務所  
業界・業種：建設業  
従業員規模：27名  
地域：全国：関東/神奈川



## 背景（課題・ニーズ）

建設業界全体の労働災害は長期的に減少傾向にあり、当社における休業4日以上災害発生件数も同様の傾向が見られます。しかし、躓き転倒災害や小型電動工具による災害などの軽微な災害があとを絶たず、その発生災害の多くは、危険軽視や危険感受性の低下に加え、新規入場者や経験の少ない労働者による安易な間違っただ判断および安全意識・知識の低下が要因として挙げられました。

そこで、工事現場への新規入場者や経験の少ない若手労働者への教育、安全な工事現場づくりがより一層求められている。

## 取り組んだプロジェクト内容

### ①新規入場者教育の充実

現場への新規入場時に行う安全教育において、現場の注意点に加え、作業手順のシミュレーション動画を作成し、イメージしやすくした。



作業手順シミュレーション動画

教育終了後、ヘルメットに貼付できるシールを配布し、新規入場者をいち早く現場全員でサポートする体制を整えた。



新規入場者シール

### ②現場内のカラー化・見える化

安全通路を緑色、段差危険箇所を黄色と現場ルールとして色分けを統一した。



安全通路 = 緑色

現場内での注意事項や危険箇所を掲示物などで明示し、見える化を行った。



段差注意喚起 = 黄色

### ③作業員みまもりサービスの導入

新規入場者に『作業員みまもりサービス』を貸与し、万が一災害発生してしまった後すぐに対応できるように作業状況を遠隔管理した。



作業員みまもりサービス

【作業員みまもりサービス】とはGPS搭載の小型機械を身につけることで、作業員一人一人の位置や体調を遠隔でリアルタイムで確認することができる。

## やってみての効果

誰でも初めての場所や経験のない仕事には戸惑いを感じますが、文章や図面だけでなく、シミュレーション動画の活用や現場を見える化することで、誰でもわかりやすく安全な現場づくりができました。また、日頃からコミュニケーションをとりあい、不安全行動を見かけた際にお互いに「危ないよ」と声を掛けられる関係性を築くことで、現場一丸となって安全第一で作業を進めることができました。

安全な工事現場づくり！

会社を問わず積極的にコミュニケーション！

不安全行動をみたらすぐ声掛け！



# ケーブル伸ばし用平台車により 背面歩行廃止・転倒リスク低減・作業負荷軽減！

事業者名：株式会社ササキ  
業界・業種：製造  
従業員規模：約230名  
地域：北海道・東北/宮城

## 背景（課題・ニーズ）

ケーブルを背面歩行で後退しながら長台の上に伸ばしていたため、視界が効かず転倒リスクがあり、さらに重いケーブルの持ち運びは体に負荷となっていた

## 目的

背面歩行の廃止で転倒リスクを低減し、かつ作業負荷を軽減する

## 取り組んだ“KAIZEN”内容

KAIZEN前：巻いたケーブルを両手で支えながら、背面歩行で後退しながらケーブルを伸ばす



### ※危険ポイント

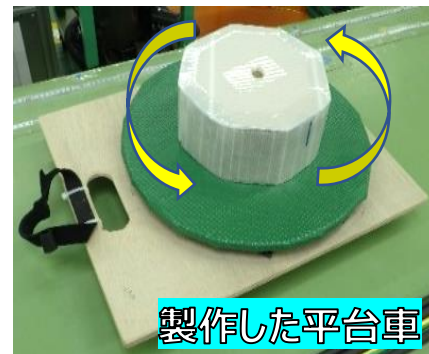
- ①背面歩行で後退⇒視界不良で転倒リスク大
- ②重いケーブルの持ち運び⇒身体への負荷蓄積

KAIZEN後：回転盤をつけた運搬用平台車の開発により、前向き歩行でケーブルが自動的に伸びる



### ※改善のワンポイント

- ①平台車を使用  
⇒前向き歩行が可能に、負荷も軽減
- ②平台車に回転盤をつける  
⇒平台車を引くだけでケーブルが伸びる



## 実施効果

- ◎背面歩行の廃止⇒転倒リスクの低減
- ◎約7kg(20m)のケーブル持ち運び廃止  
⇒体への負荷軽減
- ◎平台車に回転盤をつけ使用  
⇒作業の簡易化・効率化にも寄与

## 今後の目標や展望

労働災害で最も多い「転倒災害」の  
不安全行動を抽出し、リスク低減できるよう、  
“KAIZEN”を他工程でも行う



# 社員が安心して働ける職場づくり

東北ターボ工業

事業者名：株式会社東北ターボ工業  
業界・業種：建設業・産廃処理  
従業員規模：80名  
地域：東北/岩手県

## 1. 背景

災害・事故防止、安全運転の向上、現場の意識向上と作業品質の向上、社員の健康促進のため

## 2. 取組内容

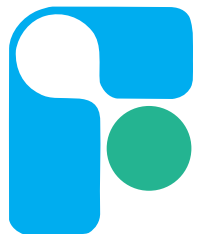
安全衛生委員会を毎月1回開催し、災害・事件事例を共有し、再発防止を図っている  
現場での事故を防ぐためにVR災害体感装置を導入し、社内で教育を実施 また、取引先にもVR装置を使用してもらい、安全意識向上に努めていく  
全ての社有車にドライブレコーダーを搭載し、スピード超過やアルコールチェック未実施などを確認し、道路交通法の順守に努めている  
社員が受診する健康診断だけではなく、必要なオプションを会社負担で実施し、管理職は人間ドックを受診し、健康管理の促進を行っている  
自社のアスベスト対策工事の施工担当者と、取引先にも参加を募り、防塵マスクの正しい使い方講習を行い、安全意識の向上に努めている

## 3. 効果

全社員の安全意識、法令順守、健康管理の意識が高まった







# 藤原工業の『たてもの』づくり 基礎は『安全な身体』づくり

事業者名：藤原工業株式会社  
業界・業種：建築設備業  
従業員規模：28人  
地域：三重県四日市市

## 背景（課題・ニーズ）

当社では、現場においてヒヤリハット事例を収集し蓄積しているが、昨年は「不注意やうっかり」「睡眠不足によるストレス」といったメンタルヘルスを含めた不注意災害についてのものが多くあった。また、自分の健康状態を客観的に知る機会がなかなかないという背景があり、安全管理の第一歩は健康管理からということを理解しているが実践するハードルが高いという課題があった。また、当社の従業員だけでなく協力会社も巻き込んだ取り組みが必要だという意見があがった。

肌年齢・血圧・腹囲  
ストレスチェック測定会実施

自分の睡眠時間や心身の健康について  
見つめなおす講義を受講

現場の安全管理  
を強化



## プロジェクト内容とその効果

当社の協力会社を含めて約130名が参加する安全大会にて、ストレスチェック装置・肌年齢計測器・血圧計やメタボメジャーを使って、一人ひとりの数値を測定する機会を設けた。楽しみながらお互いにヘルスチェックすることによって、普段の健康習慣を共有しながら交流を深めるだけでなく「どんな時にミスをしやすいか」「メンタルが安全管理に与える影響」などについて、協力会社の職人なども含めてコミュニケーションをとることができた。また、このヘルスチェックをきっかけにお互いの健康について気遣いあい・声を掛け合いながら仕事を進めるだけでなく、乳酸菌飲料のヤクルトを飲んで睡眠の質を高めるなどの健康意識を高めることができた。「安全をすべてに優先する」という当社方針のなかで、心身の健康は安全への第一歩であるという考えに基づき、今後も楽しく「安全な身体づくり」をしながら「安全なたてものづくり」をしていきたいと考えている。



製造業、建設業、運輸業等  
エイジフレンドリー部門

## 現道交通規制時の事故防止対策

事業者名：大有建設株式会社  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約400人  
地域：東海／愛知県

### 背景（課題・ニーズ）

現道の交通規制を行っていると、もらい事故（突っ込まれ事故）により交通誘導員や作業員の命が奪われることがある。そこで、現場を明るくすることや安全教育等での意識の向上を行っている。

### 取り組んだプロジェクト内容



①現場の照度確保  
フレキシブルLED  
ライトを現場に設  
置し、照度ほ確保  
した。



①安全意識の向上  
安全教育訓練にて、事  
故体験型VRを使用し安  
全意識の向上を図った。

### やってみての効果

現場を明るくすることにより、もらい事故防止に繋がった。安全意識が高まることにより、突っ込まれ時の事故防止対策となった。



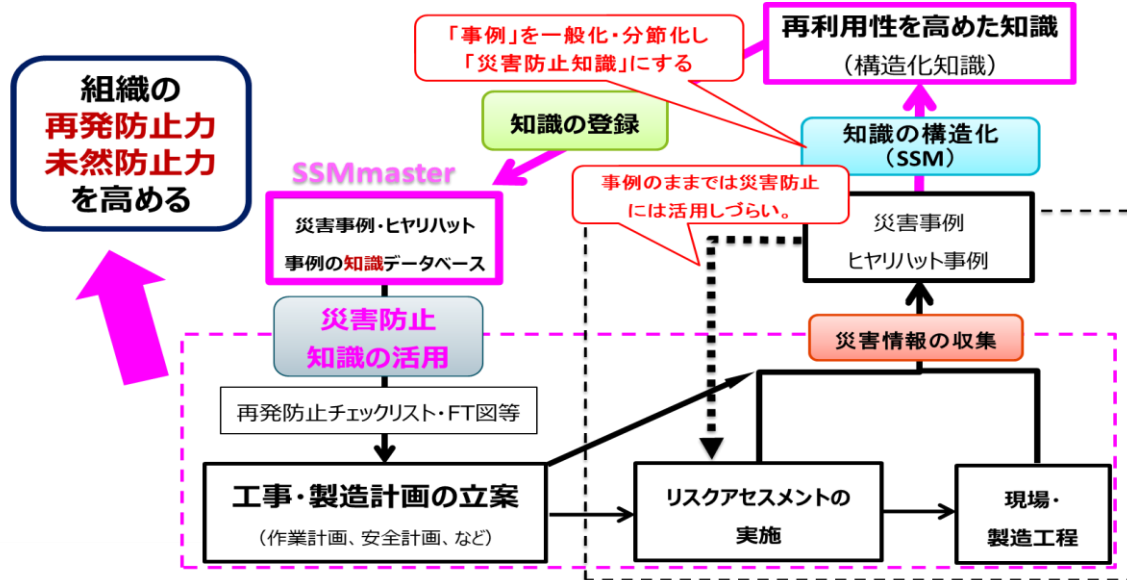
製造業、建設業、運輸業等  
企業等間連携部門

### 背景（課題・ニーズ）

当社における労働災害発生件数が年々増加しており、労働災害防止が急務である。**労働災害の中でも特に再発災害（過去に発生した労働災害と災害の型、危険源、発生要因の全てが一致）が60%を占めており**、再発災害の防止が必要である。そこで、SSM（Stress Strength Model）を考案された株式会社構造化知識研究所様に連携・監修して頂き、「SSMの考え方を取り入れた安全管理の仕組み」を構築した。  
 ※SSMとは**労働災害・事故・品質トラブルなどの発生メカニズムを知識構造（作業/機器・事象・ストレス要因（発生条件）・ストレングス要因（業務計画要因））に基づいて一般化・体系化し、対策知識と共にリスクアセスメント等の業務に再利用し、再発防止・未然防止に繋げる手法**である。

### 取り組んだプロジェクト内容①

#### SSMの考え方を取り入れた安全管理の仕組み構築



- ①過去災害の情報を危険事象・危険源発生・不安全行動の事象ごとに切り出して（分節化）、各事象メカニズムを再利用する作業を一般化して知識ベースに登録する。一般化・分節化することで、他部門への事例展開が可能となる。
- ②計画の作業ごとに知識ベースから「過去災害から学んだ教訓（災害防止知識）」を抽出し、リスクアセスメント（又はKY）や安全教育などに活用する。

### 取り組んだプロジェクト内容②

#### ① リスクアセスメントへの活用

労働災害未然防止まとめシート

SSMmasterから検索した結果

危険源	リスクアセスメント評価項目	対策	KY-作業員認識項目
足場	足場の設置・解体作業時の作業方法	作業員は必ず足場の設置・解体作業時の作業方法を遵守し、安全確認を行う。	足場の設置・解体作業時の作業方法を理解し、安全確認を行う。
作業員	作業員の高所作業時の作業方法	作業員は必ず高所作業時の作業方法を遵守し、安全確認を行う。	高所作業時の作業方法を理解し、安全確認を行う。

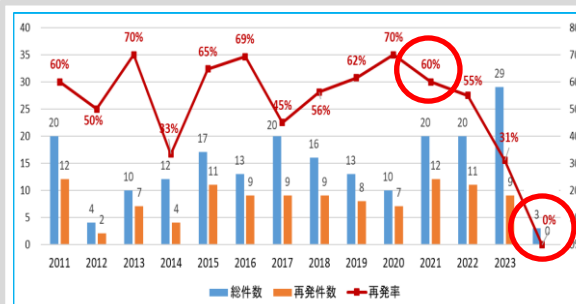
検索結果から危険リスクとして踏み台を抽出

現場のリスクアセスメントシート

#### ② 安全教育への活用

災害事例と災害防止知識を周知

### やってみての効果



再発災害が60%→0%に低減！

### 今後の目標や展望

再発率は低減できたが、労働災害発生件数自体は削減できていないため、今後は**未然防止の観点が必要**となる。AIの活用や他社様との連携を行い、「当社でこれまで経験したことがない労働災害」のデータベースへの登録を進める。

# 素材梱包の変更による取り組み 素材購入業者中山商工(株)様 企業等間連携

事業者名：日東精密工業株式会社  
業界・業種：製造業  
従業員規模：109人  
地域：関東/埼玉

協力：中山商工株式会社様  
関東/東京

## 経緯（課題・ニーズ）

弊社内で素材寸法『 $\phi 100 \times 1200L$ 』重量80Kgの材料を素材置場へ移動する際、作業員2名で人力での作業を行い1名が腰痛を発症した。重量物はリフトを使用し、スリングを掛けることになっていたが素材梱包荷姿の状態ではスリングを掛けられなかった。

## 取り組んだプロジェクト内容

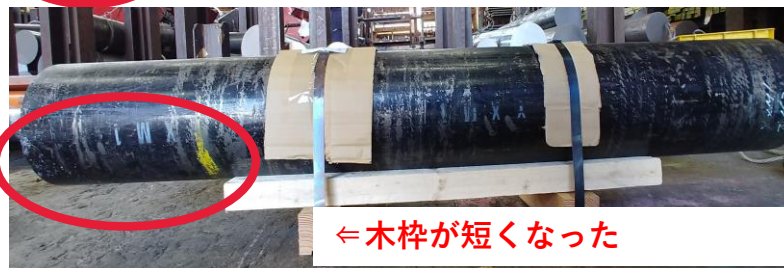


⇐木枠が長い

### 写真①

(Before)

木枠が長い為スリングを素材のみに掛ける事が出来ず、吊るせない状態。



⇐木枠が短くなった

### 写真②

(After)

木枠を短くしたことでスリングを掛ける事が出来、吊るせるようになった。



### 写真③

(After)

人力ではなくリフトを使用し移動出来るようになった。



## 改善効果

中山商工(株)様(素材購入業者)から送付された素材が素材のみをリフトで吊るすことが出来ない為「良い方法はありませんか」と問い合わせをし、双方にて検討・意見交換をした末、木枠を短くすることに至った。

写真①改善前の状態(Before)→写真②改善後の状態(After)に素材梱包の状態を変更した。写真①から写真②へ変更したことにより写真③のようにスリングを掛けることが簡単にできるようになったことで、人力での持ち運び移動が無くなり、腰痛防止に繋がった。この意見交換の期間は1週間で実践対応できた。

## 今後の目標・展望

今後も危険箇所や危険な作業等での労働災害を未然に防げるよう、全社員の労働災害への意識を高め、安全な職場づくりに努めます！！  
目指せ0災！！



その他  
部門を超えた取組



# フリーランスにも産業医を！

略して  
#ここケア

## 芸術・芸能従事者の健康活動 「こころとからだのヘルスケア」

事業者名：一般社団法人日本芸能従事者協会  
業界・業種：芸能業界・芸能従事者  
従業員規模：会員数約52,000名  
地域：全国

### 背景とニーズ

当協会の会員である芸能人やスタッフは労働法令に守られない個人事業者がほとんど(94.6%文化庁調査)で、ストレスチェックとは義務化されていません。しかし不安・うつ傾向が強いため(2023年24年過労死防止等対策白書)メンタルヘルスの向上、自殺防止の必要性を強く感じています。芸術・芸能従事者の幅広く多様な働き方に合った相談窓口が必要でした。

### 3種類の相談窓口を設置

#### ①臨床心理士「こころの119」

プライバシーの確保を重視した、誹謗中傷・ハラスメント等に対応するよろず相談

ハラスメント/コロナストレスなど  
臨床心理士対応の、よろず相談窓口

**芸能従事者  
こころの119**

ご利用できる方：  
日本芸能従事者協会および  
全国芸能従事者労災保険センターの会員様

日本芸能従事者協会  
委託先：東京海上日動メディカルサービス㈱

#### ②芸能従事者健康心理相談

相談慣れしていない芸能従事者が、気軽に相談できるオンライン対面式相談窓口

2024年厚生労働省助成事業

ストレスや不安など、  
日常生活の中でメンタルヘルスの低下に関わる  
問題を抱えた方へ

**芸能従事者  
健康心理相談**

ご利用できる方：  
日本芸能従事者協会の会員の皆様  
全国芸能従事者労災保険センターの会員の皆様

専門健康心理士による  
対人(オンライン) 45分 会員無料

#### ③産業医の相談・視察・研修

医師が踏み込見づらい芸能界の現場を視察。安全対策を指導し労災を減らすよう注意喚起

2023年 2024年 厚生労働省助成事業  
フリーランスにも産業医を

**芸能従事者  
こころと  
からだのヘルスケア**

\* ここケア \*

産業医：弥富耕平  
安全衛生推進アドバイザー：  
風田純子(東京大学理学院安全本部 准教授/産業医)  
湯浅晶子(東京女子医科大学看護学部/保健師)  
臨床心理士委託：東京海上日動メディカルサービス(株)  
専門健康心理士委託：吉岡真衣子

一般社団法人日本芸能従事者協会 全国芸能従事者労災保険センター

照明機材やケーブルの多い現場への安全指導

### やってみての効果

制作現場の現場視察では「産業医が来た！」と話題になり、担当した産業医や保健師は質問攻めにあいました。日ごろ関心がない人でも安全や健康に関する知識が増えて、労災保険の加入者が増えました。発注者の理解も深まり、保険料を支払う団体も増えました。

### 今後の目標や展望

労務管理をされないため、長時間労働をしがちな状況の改善を目指し「仕事より命」の考えを定着させて「ゼロ労災」を目指します！





# ウェザーニュースの気象情報を全社導入 ～店舗の防災対策に特化したアプリの開発で安全性を向上～

事業者名：株式会社カインズ  
業界・業種：小売  
従業員規模：約26,600人  
地域：関東/埼玉

## 背景（課題・ニーズ）

- ・気象情報は、Yahoo!やウェザーニュース、NHK等様々なアプリから情報収集をしていた
- ・店舗のピンポイントの位置の気象情報の把握ができなかった

## 目的

- ・ウェザーニュースと連携し、**店舗のピンポイントの気象情報をキャッチし、店舗と本部が同一の情報把握を可能にする**ことで、いち早くアクションにつなげ、浸水被害や発注情報につなげる

## 取り組んだプロジェクト内容

- ・約3年前よりウェザーニュースが検討していた、**店舗のピンポイントの位置の気象情報をキャッチできる**ようなシステムやアプリ開発に携わる
- ・特に**台風など事前に予見可能な自然災害**に対し、同一の情報把握だけでなく、**暴風域や強風域突入時間帯も全店舗で把握**が可能  
⇒ **避難行動や営業判断に活用**

- ・店舗の従業員や来店客の安全対策に特化した「ウェザーニュース for business」の開発のきっかけに。



## やってみての効果

### 【定性的効果】

- ・店舗と本部が同一の気象情報を把握できるようになったことで、事前準備や現場情報のコミュニケーションに活かされるようになった。
- ・**台風接近時に、暴風域突入店舗の営業判断に活用**。店舗メンバーからは、台風接近前に安全を優先した判断が好評

# エイジフレンドリー

## イベント型・情報提供型の両面からアプローチ！

事業者名：ユニ・チャーム株式会社  
業界・業種：製造  
従業員規模：約1,800名  
地域：全国

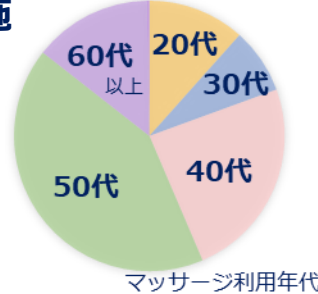
### 背景（課題・ニーズ）

プレゼンティーイズムによる損失額は、アブセンティーイズムの約18倍と試算しており、**プレゼンティーイズムの要因の第1位は運動器・感覚器の障害**となっている。  
今後社員のさらなる高齢化が予測されるため、筋力・視力等を要因としたパフォーマンス低下への対策が急務となっている。

### 取り組んだプロジェクト内容

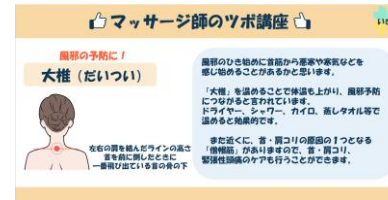
#### イベント

- ・ マッサージ師を採用し、本社にマッサージルームを開設
- ・ 本社以外でも出張マッサージ企画を実施



#### 情報提供

- ・ **ベテラン社員への健康研修実施。**  
①筋力(運動・栄養)②睡眠③メンタルヘルス④がん検診
- ・ **健康情報配信** ①ニュースレター ②デジタルサイネージ



### やってみての効果

- ・ マッサージを受けた社員の90%が施術後のパフォーマンスがアップしたと回答。
- ・ **パフォーマンスやリテラシーの向上に繋がった**という感想が多数得られた。  
「すきま時間でできる情報の紹介はうれしい！」  
「日常生活から気を付けていきたい」



### 今後の目標や展望

- ・ より多くの社員が参加できるよう、出張マッサージ企画を推進、複数拠点でのマッサージルーム開設の検討を行う。
- ・ リテラシー向上のため、楽しみながら、普段の生活やちょっとしたスキマ時間でも取り入れられるような情報発信を継続的に行う。





# 人工呼吸をしない救急蘇生法の開催 ～救命教育の全社展開～

事業者名：株式会社IHIエスキューブ  
業界・業種：情報・通信業  
従業員規模：約500人  
地域：東京・横浜・他

## 背景（課題・ニーズ）

当社では毎年秋に、若手適応能力向上を目的とし、約70kmを約7時間で自転車走行する「しまなみ海道サイクリング研修」を実施している。本研修により安心・安全に参加するため、また、今後の生活においていざとなった時に対応できることを目的とし、総務グループが主体となり、産業医ならびに保健師監修のもと救命講習を実施した。研修参加者の中から希望を募り、救命講習へは新入社員を含む10名が参加した。

## 取り組んだ内容

～人工呼吸をしない救急蘇生法～と題し、傷病者発見から呼吸確認、胸骨圧迫およびAEDを用いた救命措置の実技を行なった。

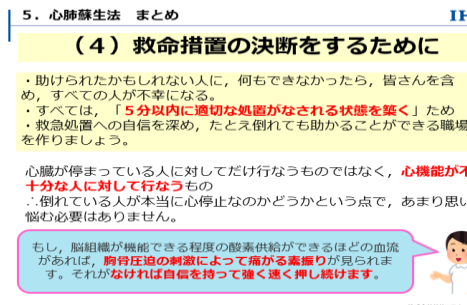
### <実技のほか、救命講習において重点を置いて実施したこと>

#### ①救命措置の重要性の周知

「いざとなるときの行動で救える命がある」として、救命措置の重要性を周知した。

#### ②救命措置実施決断の心理的ハードルを下げる

救命措置実施の決断をしやすくするため、胸骨圧迫を実施するときの判断のポイントの説明を行なった。



講習で使用した資料の一部



当日の写真

## 受講者の声・効果検証

救命講習自体の参加が初めてという方もいて、最初は参加者に「いざという時に対応ができるか」という緊張感が見られた。しかし、動画で流れを説明、産業医および保健師監修のもとで実技を行なったことで、救命措置の要領が分かり参加者の緊張感が緩和したように見受けられた。

当社はデスクワーク主体のため

参加者からは「各事業所で定期的開催してほしい」との声もあがり、参加者に対し救命措置の重要性について浸透できたと考える。講習内容も有効性も確認でき、今後も引き続き、全社展開を進める。

## 今後の目標や展望

当社内で全社展開をし、各事業所に傷病者発生時の対応ができる人員を増やす。

## 全社員で取り組む 多能工化・多専門化活動！ ～標準化作業を軸とした安全で効率的な教育展開～

事業者名：寿精版印刷株式会社  
業界・業種：製造業  
従業員規模：496人  
地域：東京・大阪

### 背景（課題・ニーズ）

当社では以前から各部署単位での、**多能工化**に取り組んでいましたが、今後の更なる**生産量増加に対応**し、お客様へ**安定して製品を供給する責任**を果たすべく、改めて全社員で一丸となって、部署・係を超えた**効率的で精度の高い、多能工化・多専門化**に取り組みました。

### 取り組んだプロジェクト内容

#### 多能工化・多専門化教育

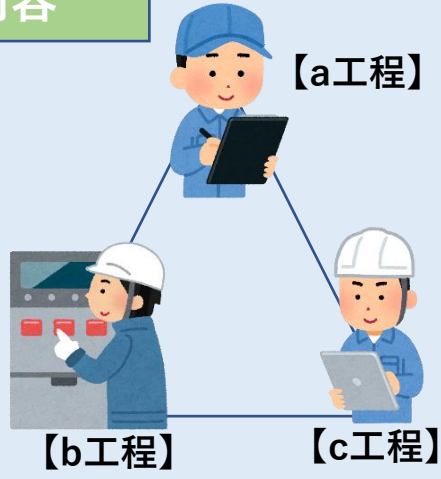
Aさん



【a工程】



多能工化  
多専門化



ISOの考え方を基準として**作成された作業標準**をもとに教育実施。Aさんはa工程の担当者であったが、部署間連携での多能工化・多専門化教育により、b工程、c工程の作業も覚え、**複数の工程でメインオペレーターと同じ水準で、安全に作業できるようになった！** 自工程だけでなく、全体の流れを理解することで、相互リスクを認識し、より**安全な環境作り**の促進につながった！

### やってみての効果

#### ● 平均残業時間の削減（疲労による安全リスクの軽減）

複数の工程で作業できる社員の教育  
⇒ 作業の分散化に繋がり、生産量増加に伴う供給責任を果たしながら、平均残業時間の削減！

月当たり平均残業時間の推移：

2022年度：26.4時間、2023年度：23.4時間、2024年度(上期)：21.67時間

#### ● 育休の取りやすい職場環境（ワークライフバランス・心の健康）

育休を取得したい社員の工程を他メンバーが支援できる！

⇒ 本人が希望する場合、育休取得が100%対応可能に！

男性の育休取得者数（取得割合）：

2022年度：7人(54%)、2023年度：6人(75%)、2024年度(上期)：3人(60%)

#### ● BCP対応（会社全体の安定供給リスクの軽減）

多能工化・多専門化の推進展開（東京・大阪 拠点間での相互対応可能）

⇒ 自然災害等が発生しても事業の継続ができる体制を整備！



## 心も身体も安心安全な職場づくりへの挑戦！ ～心理的安全性の浸透教育～

事業者名：寿精版印刷株式会社

業界・業種：製造業

従業員規模：496人

地域：東京 / 大阪

### 背景（課題・ニーズ）

<心理的安全性とは：チームやグループの中で、メンバーが自分の意見やアイデアを自由に発言できる環境のこと。>

私たちは、「安全は全てに優先する」という基本理念のもと、各工場で無災害活動の推進中。社内標準化による不安全の撲滅を継続的に行う中で、社員一人ひとりが能力を発揮して活躍できるようにするには、自分の考えを積極的に出し、チャレンジできる環境が、重要だと考えた。

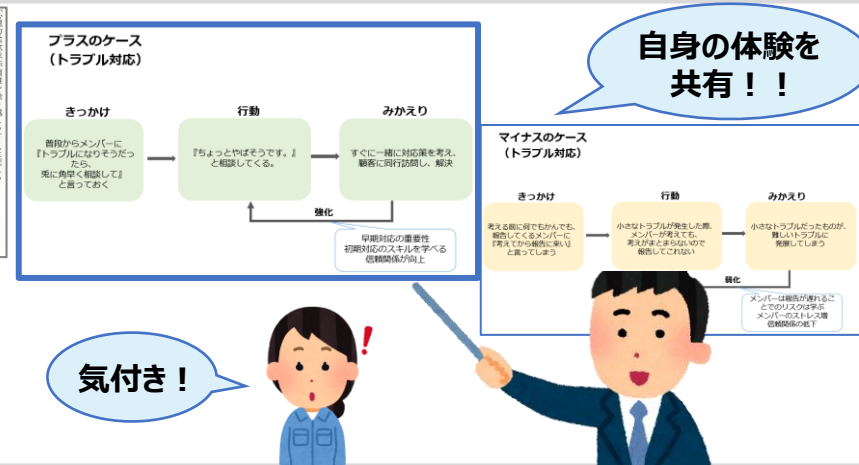
### 活動内容

#### ①心理的安全性に関する教育の実施。【2021.01.～2021.12.】

2020年9月に発売された、『心理的安全性のつくりかた』を用いて、**トップ経営層から順にマネジメント層全体**に至るまで、段階的な教育機会の設定。教育メンバー内で担当を割り振り、各自が自分なりに教材内容を自身の体験・経験も交えた形でとりまとめ、他者に説明共有。ディスカッション形式での社内メンバー教育を実施。

#### ②学びをもとにした実践。【2022.01.- 現在も取組中】

教育を受けたマネジメント層が、自部署メンバーへ内容共有。出席メンバーが発言しやすい会議体のデザイン設計の検討。



### やってみての効果

#### ①『心理的安全性の考え方』の浸透：

- ・教育を受けた者が自身の周りの者に教育する。学び合いの連鎖による浸透。  
→『心理的安全性』という言葉が、組織内で共通言語化！

#### ②会議体のデザイン設計と共有（意思決定、報告、相談、意見交換・・・）：

- ・会議体を目的ごとにデザイン設計し、参加メンバー内に共有。  
→立場を気にせず、自身の意見が言える環境。意見交換による互いの気づき。



### 今後の展望

心理的安全性ある組織文化の醸成！  
『失敗は誰もがするもの。  
改善をみんなで実行し、不安全の撲滅と、  
チャレンジできる環境の醸成を推進する』

